

Bluetooth 2Dバーコードリーダー

BC-BS802D

ユーザーガイド



このマニュアルは予告なく変更されることがあります

免責事項

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

本体を解体したり、本体からラベルをはがしたりしないでください。その場合、株式会社ビジコムを保証の対象外となります。

この取扱説明書の写真は実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで告知するアップデート情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品が当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合があります。お客様は個人または法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部を流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解説、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

株式会社ビジコム

<https://www.busicom.co.jp>

Copyright ©2023 BUSICOM Co.,Ltd. All Rights Reserved.

改訂履歴

バージョン	説明	日付
V1.0	初版	2021-05-14
V1.1	各部名称などの用語の変更	2021-05-14
V1.1.1	免責事項の改定	2023-06-14

目次

免責事項	3
改訂履歴	4
序文	18
イントロダクション	18
章の説明	18
安全について	19
BC-BS802D-CW の洗浄と消毒のガイドライン	20
第 1 章：はじめに	21
イントロダクション	21
開梱について	21
BC-BS802D 説明	22
ボタンの機能	23
バッテリーの充電	24
BC-BS802D をスマートフォン/タブレットに接続する	25
BC-BS802D のオン/オフ	29
スキャン手順	29
第 2 章：システム設定	30
イントロダクション	30
初期化（工場出荷時設定）	30
スキャンモード（1D リーダー）	30
トリガーモード	30
センスモード	31
デコードセッションタイムアウト	31
デコード間のタイムアウト	31
リーダー感度	32
スキャンモード（2D リーダー）	32
トリガーモード	32
センスモード	33
デコードセッションタイムアウト	33
手ぶれ補正タイムアウト	34

読み取り成功後	34
デコード間のタイムアウト（同じバーコード）	35
感度	36
動作モード	37
Bluetooth モード	37
USB モード	39
同じバーコードストレージを防止	41
製品情報のクエリ	41
フラッシュに保存されたデータのクエリ/削除	42
サウンド通知	42
振動通知	43
Bluetooth ペアリングを削除	43
自動/手動電源オフ	44
Bluetooth デバイス名	45
無効なホストデータに対する応答	46
バーコードセパレーター	46
パケットモード	47
NAK / ACK 再試行カウント	48
NAK / ACK タイムアウト	48
製品シリアル番号	49
タイムスタンプ	49
日付形式を設定	50
USB HID-KBW / Bluetooth HIDのパラメーター	51
キーボードの種類	51
文字コード	53
大文字と小文字を変換	53
Alt + キーパッドをエミュレートする	54
ファンクションキーマッピング	55
数値キーパッドをエミュレートする	56
コードページ	56
Bluetooth HID の文字間遅延	57
USB HID-KBW のキーストローク間遅延	58

第3章：バーコード体系	60
イントロダクション	60
1D リーダー	60
すべてのシンボル体系を有効/無効にする	60
Code 128	60
Code 128 を有効/無効にする	60
コード 128 の長さの範囲を設定	61
UCC/EAN-128	62
工場出荷時のデフォルトに戻します	62
UCC / EAN-128 を有効/無効にする	62
UCC / EAN-128 の長さ範囲の設定	62
AIM 128	63
工場出荷時のデフォルトに戻します	63
AIM 128 を有効/無効にする	63
AIM 128 の長さ範囲の設定	64
EAN-8	65
工場出荷時のデフォルトに戻します	65
EAN-8 を有効/無効にする	65
2 桁のアドオンコード	65
5 桁のアドオンコード	66
EAN-8 拡張	67
チェックキャラクターの送信	67
EAN-13	68
工場出荷時のデフォルトに戻します	68
EAN-13 を有効/無効にする	68
チェックキャラクターの送信	68
2 桁のアドオンコード	69
5 桁のアドオンコード	70
EAN-13 (290 アドオンコードが必要)	71
EAN-13 (378/379 アドオンコードが必要)	71
EAN-13 414/419 アドオンコードから必要	72
EAN-13 (434/439 アドオンコードが必要)	72

EAN-13 977 アドオンコードから	73
EAN-13 978 以降のアドオンコードが必要	73
EAN-13 979 アドオンコードから必要	74
ISSN	75
工場出荷時のデフォルトに戻します	75
ISSN を有効/無効にする	75
ISBN	75
ISBN を工場出荷時のデフォルトに戻す	75
ISBN を有効/無効にする	75
Set ISBN Format	76
UPC-E	76
工場出荷時のデフォルトに戻します	76
UPC-E を有効/無効にする	76
チェックキャラクターの送信	76
2 桁のアドオンコード	77
5 桁のアドオンコード	77
プリアンブルキャラクターの送信	78
UPC-E 拡張	79
UPC-A	79
UPC-A を有効/無効にする	79
チェックキャラクターの送信	80
プリアンブルキャラクターの送信	80
2 桁のアドオンコード	80
5 桁のアドオンコード	81
Interleaved 2 of 5	82
工場出荷時のデフォルトに戻します	82
Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする	82
文字検証をチェック	83
Interleaved 2 of 5 の長さの範囲を設定	83
ITF-6	84
ITF-14	85
Deutsche 14	85

工場出荷時のデフォルトに戻します	85
Deutsche 14 の有効化/無効化	85
Deutsche 12	86
工場出荷時のデフォルトに戻します	86
Deutsche 12 の有効化/無効化	86
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)	87
工場出荷時のデフォルトに戻します	87
COOP 25 を有効/無効にする	87
字検証をチェック	87
COOP 25 の長さ範囲を設定	88
Matrix 2 of 5 (European Matrix 2 of 5)	89
工場出荷時のデフォルトに戻します	89
Matrix 2 of 5 の有効化/無効化	89
文字検証をチェック	89
Matrix 2 of 5 の長さ範囲を設定	90
Industrial 25	91
工場出荷時のデフォルトに戻します	91
Industrial 25 の有効化/無効化	91
文字検証をチェック	91
Industrial 25 に長さの範囲を設定	92
Standard 25	93
工場出荷時のデフォルトに戻します	93
Standard の有効化/無効化	93
文字検証をチェック	93
Standard 25 の長さ範囲を設定	94
Code 39	95
工場出荷時のデフォルトに戻します	95
Code 39 を有効/無効にする	95
文字検証をチェック	95
スタート/ストップキャラクターを送信	96
Code 39 Full ASCII の有効化/無効化	96
Code 39 の長さ範囲を設定	96

Code32 の有効化/無効化	97
Code 32 プリフィックス	98
Code 32 チェックキャラクターを送信	98
Code 32 のスタート/ストップキャラクターの送信.....	98
NW7(Codabar).....	99
工場出荷時のデフォルトに戻します	99
NW7 (Codabar) の有効化/無効化	99
文字検証をチェック	99
スタート/ストップキャラクターの送信.....	100
NW7 (Codabar) の長さ範囲の設定.....	100
Code 93	102
工場出荷時のデフォルトに戻します	102
Code 93 を有効/無効にする	102
文字検証をチェック	102
Code 93 の長さ範囲を設定.....	103
Code 11	104
工場出荷時のデフォルトに戻します	104
Code 11 を有効/無効にする	104
文字検証をチェック	104
Code 11 の長さ範囲の設定.....	105
Plessey	107
工場出荷時のデフォルトに戻します	107
Plessey の有効化/無効化	107
文字検証をチェック	107
Plessey の長さ範囲の設定.....	108
MSI-Plessey	109
工場出荷時のデフォルトに戻します	109
MSI-Plessey の有効化/無効化	109
文字検証をチェック	109
MSI-Plessey の長さ範囲の設定	110
GS1 Databar.....	111
工場出荷時のデフォルトに戻します	111

GS1 Databar を有効/無効にする	111
2D リーダー	112
全体設定	112
すべてのシンボル体系を有効/無効にする	112
1D シンボル体系の有効化/無効化.....	112
2D シンボルの有効化/無効化	112
ビデオリバーズ.....	113
Code 128	114
工場出荷時のデフォルトに戻します	114
Code 128 を有効/無効にする	114
Code 128 の長さの範囲を設定	114
GS1-128 (UCC/EAN-128)	116
工場出荷時のデフォルトに戻します	116
GS1-128 を有効/無効にする.....	116
GS1-128 の長さ範囲の設定	116
AIM-128	118
工場出荷時のデフォルトに戻します	118
AIM-128 を有効/無効にする.....	118
AIM-128 の長さ範囲の設定	118
EAN-8.....	120
工場出荷時のデフォルトに戻します	120
EAN-8 を有効/無効にする	120
チェックキャラクターを送信	120
アドオンコード.....	120
必要なアドオンコード	121
EAN-8 拡張	122
EAN-13.....	123
工場出荷時のデフォルトに戻します	123
EAN-13 を有効/無効にする	123
チェックキャラクターを送信	123
アドオンコード.....	124
必要なアドオンコード	124

290 から始まる EAN-13 必要なアドオンコード (BS8060-2T の場合)	125
EAN-13 は 378/379 から始まるアドオンコードが必要 (BS8060-2T の場合)	125
EAN-13 414/419 アドオンコードで始まる必要 (BS8060-2T の場合)	126
EAN-13 は 434/439 から始まるアドオンコードが必要 (BS8060-2T の場合)	126
EAN-13 977 以降のアドオンコードが必要 (BS8060-2T の場合)	127
EAN-13 978 以降のアドオンコードが必要 (BS8060-2T の場合)	127
EAN-13 979 アドオンコードから必要 (BS8060-2T の場合)	128
ISSN.....	129
工場出荷時のデフォルトに戻します	129
ISSN を有効/無効にする	129
アドオンコード.....	129
必要なアドオンコード	130
ISBN.....	131
工場出荷時のデフォルトに戻す	131
ISBN を有効/無効にする	131
ISBN フォーマットを設定	131
アドオンコード.....	132
必要なアドオンコード	132
UPC-E.....	133
工場出荷時のデフォルトに戻します	133
UPC-E を有効/無効にする	133
チェックキャラクターを送信	133
アドオンコード.....	134
必要なアドオンコード	134
システム文字「0」を送信	135
UPC-E 拡張.....	135
UPC-A.....	136
工場出荷時のデフォルトに戻します	136
UPC-A を有効/無効にする	136
チェックキャラクターを送信	136
アドオンコード.....	137
必要なアドオンコード	137

プリアンブルキャラクターの送信	138
Interleaved 2 of 5	139
工場出荷時のデフォルトに戻します	139
Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする	139
Interleaved 2 of 5 の長さの範囲を設定	139
文字検証をチェック	140
ITF-14	141
ITF-6	141
Matrix 2 of 5	142
工場出荷時のデフォルトに戻します	142
Matrix 2 of 5 の有効化/無効化	142
Matrix 2 of 5 の長さ範囲を設定	142
文字検証をチェック	143
Industrial 2 of 5	144
工場出荷時のデフォルトに戻します	144
Industrial 2 of 5 の有効化/無効化	144
Industrial 2 of 5 の長さ範囲を設定	144
文字検証をチェック	145
Standard 25 (IATA 2 of 5)	146
工場出荷時のデフォルトに戻します	146
Standard 25 の有効化/無効化	146
Standard 25 の長さ範囲を設定	146
文字検証をチェック	147
Code 39	148
工場出荷時のデフォルトに戻します	148
Code 39 の有効化/無効化	148
スタート/ストップキャラクターを送信	148
Code 39 の長さ範囲を設定	148
文字検証をチェック	149
Code 39 Full ASCII の有効化/無効化	150
Code 32 の有効化/無効化 (BS8060-2T の場合)	150
Code 32 プリフィックス (BS8060-2T の場合)	150

Code 32 のチェックキャラクターを送信 (BS8060-2T の場合)	151
Code 32 の開始/停止文字の送信 (BS8060-2T の場合)	151
NW7(Codabar).....	152
工場出荷時のデフォルトに戻します	152
NW7 (Codabar) の有効化/無効化	152
NW7 (Codabar) の長さ範囲の設定.....	152
文字検証をチェック	153
スタート/ストップキャラクターを送信.....	154
スタート/ストップキャラクターフォーマット	154
Code 93	155
工場出荷時のデフォルトに戻します	155
Code 93 を有効/無効にする	155
Code 93 の長さ範囲を設定.....	155
文字検証をチェック	156
GS1-Databar (RSS)	157
工場出荷時のデフォルトに戻します	157
GS1-DataBar を有効/無効にする.....	157
アプリケーション識別子「01」を送信	157
Code 11	158
工場出荷時のデフォルトに戻します	158
Code 11 を有効/無効にする	158
Code 11 の長さ範囲の設定.....	158
チェックキャラクターの送信	159
文字検証をチェック	159
Plessey	161
工場出荷時のデフォルトに戻します	161
Plessey を有効/無効にする.....	161
Plessey の長さ範囲の設定.....	161
文字検証をチェック	162
MSI-Plessey	163
工場出荷時のデフォルトに戻します	163
MSI-Plessey の有効化/無効化.....	163

MSI-Plessey の長さ範囲の設定	163
チェックキャラクターの送信	164
文字検証をチェック	164
PDF 417	165
工場出荷時のデフォルトに戻します	165
PDF 417 の有効化/無効化	165
PDF 417 の長さ範囲の設定	165
PDF 417 ツインコード	166
QR Code	168
工場出荷時のデフォルトに戻します	168
QR コードを有効/無効にする	168
Micro QR	168
QR コードの長さの範囲を設定	168
QR ツインコード	169
Data Matrix	171
工場出荷時のデフォルトに戻します	171
Data Matrix の有効化/無効化	171
Data Matrix の長さの範囲の設定	171
長方形バーコード	172
ミラーイメージ	172
Data Matrix ツインコード	172
Chinese Sensible Code	174
工場出荷時のデフォルトに戻します	174
Chinese Sensible Code を有効/無効にする	174
Chinese Sensible Code の長さの範囲を設定	174
第4章：プリフィックス/サフィックス	176
1D Scanner	176
プリフィックスシーケンス	176
カスタムプリフィックス	176
カスタムプリフィックスを有効/無効にする	176
カスタムプリフィックスを設定	177
AIM ID プリフィックス	178

コード ID プリフィックス	178
カスタムサフィックス	178
カスタムサフィックス 有効/無効	178
カスタムサフィックス設定	179
終端文字サフィックス	179
終端文字サフィックス 有効/無効	179
終端文字サフィックス設定	180
2D リーダー	181
プリフィックス順	181
カスタムプリフィックス	182
カスタムプリフィックス 有効/無効	182
AIM ID プリフィックス	183
コード ID プリフィックス	183
すべてのデフォルトのコード ID をリストアする	183
コード ID 修正	184
カスタムサフィックス	187
カスタムサフィックス 有効/無効	187
カスタムサフィックスを設定	187
終端文字サフィックス	188
終端文字サフィックス 有効/無効	188
終端文字のサフィックスを設定する	188
第 5 章 : スキャン設定	190
イントロダクション	190
読み取り領域	190
全領域読み取り	190
特定のエリアの読み取り	190
読み取り領域を指定	191
第 6 章 : データフォーマッター	192
イントロダクション	193
データフォーマットの追加	193
バーコードを使用したプログラミング	193
シリアルコマンドによるプログラミング	195

データフォーマッター有効/無効	196
ノンマッチエラービープ	197
データフォーマットを有効	198
単一スキンのデータ形式を変更する	198
クリアデータフォーマット	199
クエリデータフォーマット	199
フォーマッタコマンドタイプ 6.....	200
コマンドを送信する	200
移動コマンド.....	203
検索コマンド.....	204
その他のコマンド	207
付録.....	211
工場出荷時の設定	211
Digit バーコード (1D リーダー)	229
0 ~ 9.....	229
A ~ F.....	230
Digit バーコード (2D リーダー)	231
0 ~ 9.....	231
A ~ F.....	232
Digit バーコード.....	233
0 ~ 9.....	233
A ~ F.....	234
保存/キャンセルバーコード (1D リーダー)	235
保存/キャンセルバーコード (2D リーダー)	236
保存/キャンセルバーコード	237
AIM ID テーブル (2D リーダー).....	238
コード ID テーブル (1D リーダー)	244
コード ID テーブル (2D リーダー)	245
ASCII テーブル	246
ASCII ファンクションキーマッピングテーブル	251
ASCII ファンクションキーマッピングテーブル (続き).....	252
シンボル ID ナンバー	253

序文

イントロダクション

このマニュアルでは、BC-BS80 バーコードリーダー（以下、「BS80」または「リーダー」とか呼ぶ）のセットアップと使用に関する詳細な手順を説明します。

章の説明

第1章 はじめに	この章では、リーダーを初めて起動して実行する方法について説明します。
第2章 システム設定	この章では、バーコードのプログラミング手順について説明し、システムパラメーターの構成方法を示します。
第3章 バーコード体系	この章では、互換性のあるすべての記号を一覧表示し、関連するパラメーターを構成する方法について説明します。
第4章 プリフィックス/サフィックス	この章では、プリフィックス/サフィックスを使用してスキャンしたデータをカスタマイズする方法について説明します。
第5章 スキャン設定	この章では、設定を使用してリーダーをさまざまなアプリケーションに適合させる方法について説明します。
第6章 データフォーマッター	この章では、データフォーマッターを使用してスキャンしたデータをカスタマイズする方法について説明します。
付録	この章では、工場出荷時のデフォルトの表と、頻繁に使用されるプログラミングバーコードの束を提供します。

安全について

取扱説明書をよく読み、特に安全上の注意事項を遵守してください。

このマニュアルに記載されている適切な取り扱いに関する安全上の注意事項に従わない場合、人身傷害または物的損害の責任は負いません。

- リーダーを直射日光にさらすなど、過度に高温の場所に置かないでください。
- 湿度の高い場所や急激な温度変化のある場所でリーダーを使用しないでください。
- 充電式バッテリーはリーダーに内蔵されており、交換できません。
- 充電式バッテリーを損傷しないでください。充電式バッテリーを損傷すると、爆発または火災の原因となることがあります。

BC-BS802D-CW の洗浄と消毒のガイドライン

- ✧ スキャンウィンドウは清潔に保つ必要があります。
- ✧ スキャンウィンドウを傷つけないでください。
- ✧ 毛先が柔らかなブラシなどを使用して、スキャンウィンドウから汚れを取り除いてください。
- ✧ スキャンウィンドウを拭く場合は、メガネ拭きなどの柔らかい布を使用してください。
- ✧ スキャンウィンドウに液体を噴霧しないでください。

以下の洗剤は、BC-BS802D-CW の消毒と洗浄に使用できます。

- 水
- 3%の過酸化水素と 97%の水溶液
- 91%イソプロピルアルコールおよび 9%水溶液
- Metrex CaviCide
- 75%アルコール
- Clinell ユニバーサル消毒ワイブ
- Sani-Hands®インスタントハンド消毒ワイブ
- PDI サニクロス AF3 殺菌使い捨てワイブ
- 10%漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム 0.55%）および 90%水溶液（リーダーのラベルには貼らないでください）
- USB ポートには洗剤を塗布しないでください



保証は、不適切なメンテナンスによって引き起こされた損傷には適用されません。

保護ラベルフィルムは、はがさないでください。

第1章：はじめに

イントロダクション

BC-BS802D は、さまざまなニーズを満たす 1D または 2D スキャンエンジンを搭載したワイヤレスポケットバーコードリーダーです。それは忙しいまたは限られたワークスペースのための素晴らしいスペースセーバーです。また、Bluetooth HID または SPP または BLE 通信を介して iOS、Android、および Windows デバイスをサポートします。

この章には、BC-BS802D の図解付きの紹介が含まれています。リーダーをお手元にある場合は、リーダーを上手に利用して、このマニュアルをよりよく理解してください。この章は、通常のユーザー、メンテナンススタッフ、およびソフトウェア開発者向けに書かれています。

開梱について

パッケージを開き、リーダーとその付属品を取り出します。梱包リストのすべてが存在し、損傷がないことを確認してください。内容物が破損または不足している場合は、元のパッケージを保管し、アフターサービスについて直ちに販売店に連絡してください。

BC-BS802D 説明



1 バッテリーLED

2 スキャン LED

3 データ LED

4 SCAN ボタン

5 Delete ボタン

6 ファンクションボタン/LED

7 マイクロ USB ポート

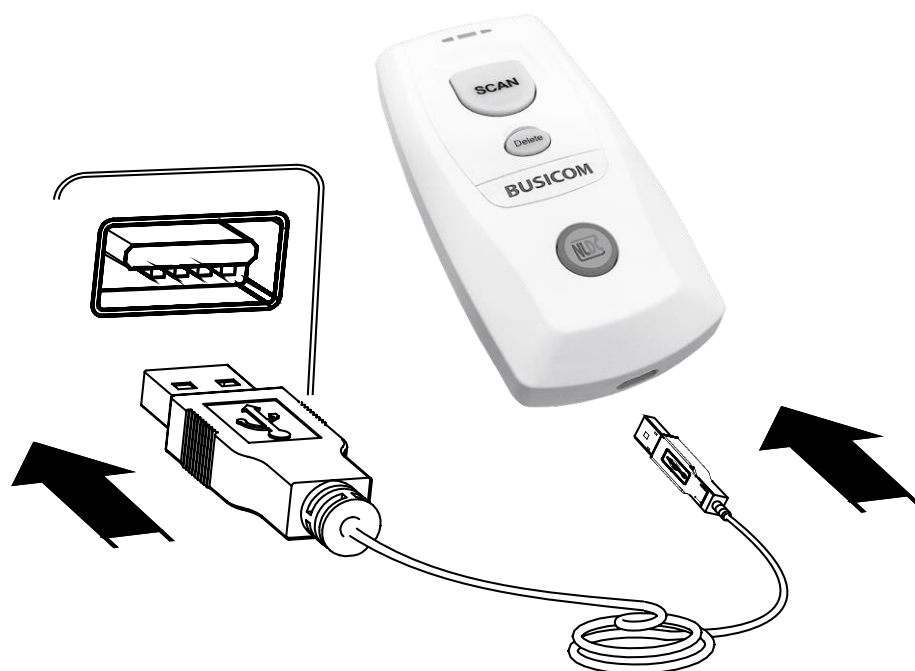
8 スキャンウィンドウ

ボタンの機能

[SCAN ボタン]
<p>ボタンを押してバーコードをスキャンします。</p> <p>ボタンを 3 秒間押し続けると、電源がオンになります。</p>
[Delete ボタン]
<p>ボタンを押して、削除するバーコードをスキャンする前に、次のいずれかの条件でフラッシュメモリから対応するデータを削除します。</p> <p>①Bluetooth モードが有効、Bluetooth 接続が確立していない。</p> <p>②Bluetooth モードとバッチ送信が有効。</p> <p>③USB モードが有効、USB ケーブルが接続されていない。</p> <p>④USB モードおよびバッチ送信が有効。</p> <p>リーダーをリセットするには、ボタンを 7 秒間押し続けます。</p>
[ファンクションボタン]
<p>ボタンを押して、Bluetooth モードで接続されている iOS デバイスの HID キーボードをオン/オフにします。</p> <p>ボタンを 3 秒間押し続けると、次のいずれかの条件でデータ送信が開始されます。</p> <p>①Bluetooth モードおよびバッチ送信が有効。</p> <p>②USB モードが有効、USB ケーブルが接続されている。</p>
[SCAN ボタン]+ [ファンクションボタン]
<p>2 つのボタンを同時に 3 秒間押し続けると、Bluetooth モードと USB モードが切り替わります。</p>
[Delete ボタン] +[ファンクションボタン]
<p>2 つのボタンを同時に押して、ペアリング解除し、他の Bluetooth デバイスから検出できるようにします。</p> <p>リーダーを USB ケーブルで PC と接続し、ファームウェアアップグレードユーティリティの[開始]ボタンをクリック。</p> <p>2 つのボタンを同時に 7 秒間押すとファームウェアを更新します。</p> <p>注：更新が失敗した場合、または誤って更新ステータスを入力した場合は、[Delete ボタン] を 7 秒間押し続けて、リーダーをリセットする必要があります。</p>
[SCAN ボタン]+[Delete ボタン]
<p>2 つのボタンを同時に押して、バッテリーLED でバッテリーレベルを確認します。</p> <p>2 つのボタンを同時に 3 秒間押し続けると、次のいずれかの条件でフラッシュメモリに保存されているすべてのデータが削除されます。</p> <p>①Bluetooth モードが有効、Bluetooth 接続がされており、データのバッチ送信と確認受信が有効になっている。</p> <p>②USB モードが有効、USB ケーブル経由で PC に接続され、データの受信確認が有効になっている。</p>

バッテリーの充電

以下に示すように、マイクロ USB ケーブルでホストデバイスに接続してリーダーを充電します。



注：バッテリー残量が少ないと、リーダーが故障したり、誤動作したりする可能性があります。初めて使用する前に、バッテリーを 3～4 時間充電してください。

BC-BS802D をスマートフォン/タブレットに接続する

1. デバイスに HID または SPP または BLE プロファイルがあることを確認します。
2. リーダーのファンクション LED が赤色に点灯している場合は、[SCAN ボタン]と[ファンクションボタン]を同時に 3 秒間押し続けるか、Bluetooth モードバーコードをスキャンして Bluetooth モードに切り替えます。
3. [Delete ボタン]と[ファンクションボタン]を同時に押すか、[Bluetooth ペアリング解除]バーコードをスキャンして、リーダーから既存のペアリング情報を削除します。



Bluetooth モード



Bluetooth ペアリング解除

1. スマートフォン/タブレットの省電力モードをオフにします。
2. リーダーをスマートフォン/タブレットに接続する前に、以下の適切なバーコードをスキャンして HID、SPP、または BLE プロファイルを選択してください。 デバイスが使用しているプロファイルがわからない場合は、最初に HID プロファイル、次に SPP、最後に BLE プロファイルを試してください。



HID (デフォルト)



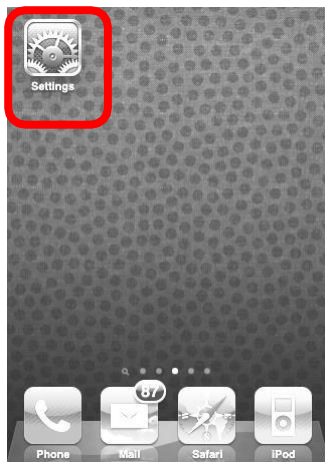
SPP



BLE

1. 次の接続手順を完了します。（例：iPhone とのペアリング）

(1) 「設定」をタップ。



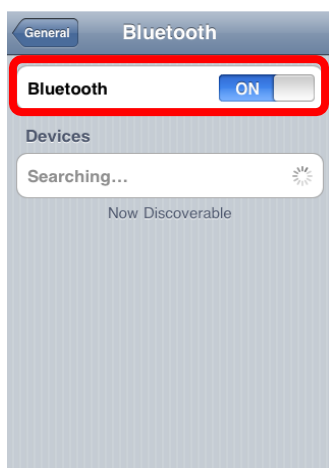
(2) 「一般」をタップ。



(3) 「Bluetooth」をタップ



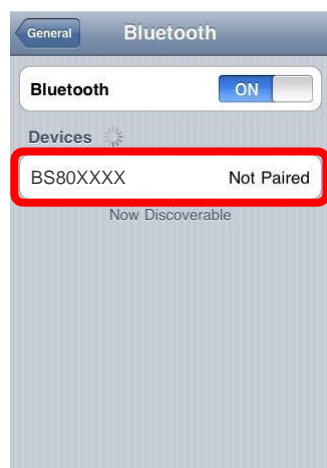
(4) 「Bluetooth」をオンにし
デバイスを検索します。



(5) 「BS80XXXX」を選択して
接続する。



(6) 「接続済み」の表示
で接続は完了です。



2. 接続が完了すると、リーダーのファンクション LED が青色に点灯します。

3. ワードパッドファイルまたは関連アプリを使用する前に、デバイスのキーボード言語を米国英語に設定します。次に、バーコードをスキャンすると、現在のカーソル位置の前にバーコードデータが表示されます。データをスマートフォン/タブレットに送信できない場合は、「工場出荷時のデフォルトに戻す」バーコードをスキャンしてください（第 2 章を参照）。

注：この製品は Bluetooth 規格に準拠しています。この製品と通信するデバイスは、同じ SPP または HID または BLE をサポートする必要があります。他のプロファイルを持つ他の Bluetooth デバイスの場合、製品のテストが完了するまで接続を保証できません。

本製品と本製品が接続されている機器との間の障害物や電波状況により、本製品の通信速度や通信範囲が異なる場合があります。ホストデバイスの状態も、リーダーの通信速度と範囲に影響を与える可能性があります。

LED 通知

バッテリーLED	
赤色点灯	充電中
緑色点灯	充電完了
赤色・緑色交互に点滅	バッテリーが検知できない
赤色点滅	バッテリー残量の低下警告
リーダーが USB ケーブルで PC に接続されていない場合、 [SCAN ボタン] と [Delete ボタン] を同時押しで、バッテリーLED でバッテリーレベルを表示できます。	
緑色点灯	バッテリー残量（高）
赤色・緑色の点灯	バッテリー残量（中）
赤色点灯	バッテリー残量（低）

バッテリー残量が少なすぎると、リーダーのピープ音が鳴り、バッテリーLED が赤く点滅します。リーダーが強制的にシャットダウンする直前に充電してください。シャットダウンしたら、リーダーの電源を再投入する前に、完全に充電してください。

スキャン LED	
緑色点滅	正常読み取り
データ LED	
赤色点滅	フラッシュメモリにデータがあります。
赤色点灯	フラッシュメモリが不足しています。
ファンクション LED	
長い消灯と青色点滅（遅い）	Bluetooth モードは有効だが、ペアリングはできていません。
青色点滅（遅い）	Bluetooth モード ペアリング待機中
青色点灯	Bluetooth 接続が完了
青色点滅（速い）	Bluetooth モード データ送信中
赤色点灯	USB モードが有効
赤色点滅	USB モード USB 経由でバッチ送信中

BC-BS802D のオン/オフ

リーダーの電源投入方法： SCAN ボタンを 3 秒間長押しします。

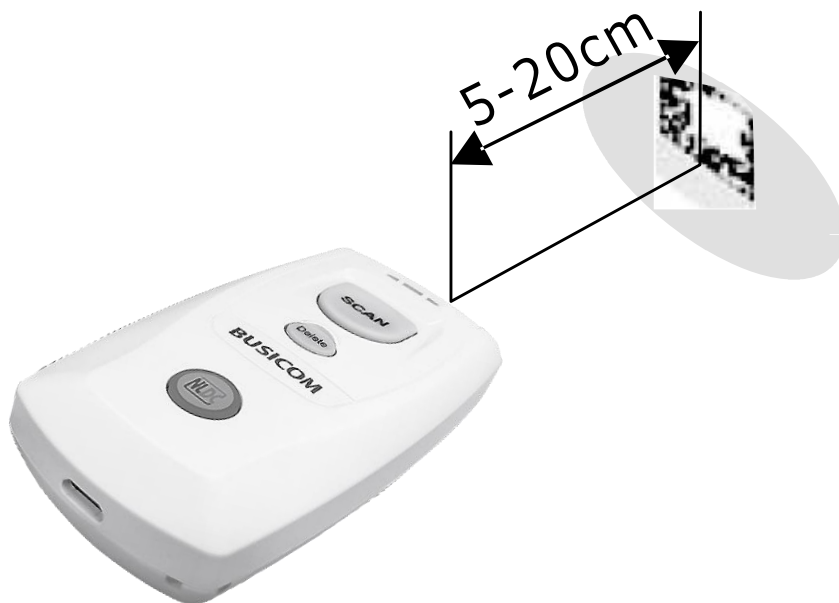
リーダーの電源オフ： デフォルトでは、リーダーの操作が 30 分間行われないと、電源が自動的にオフになります。 オートパワーオフタイマーは調整可能です。

電源オフバーコードをスキャンして、リーダーの電源を切ることもできます。 詳細については、第 2 章の「自動/手動電源オフ」セクションを参照してください。

スキャン手順

スキャン角度とバーコードとリーダー間の距離を調整して、次の範囲に入るようにします。

1. バーコードの中心を横切るようにスキャンラインを向けます。
2. 最適なスキャン距離：5-20cm。



第2章：システム設定

イントロダクション

この章では、リーダーの基本的なシステムパラメーターを設定する方法について説明します。

初期化（工場出荷時設定）



工場出荷時設定に戻す

スキャンモード（1D リーダー）

トリガーモード

トリガーを引くと、デコードセッションがアクティブになります。デコードセッションは、バーコードがデコードされるか、トリガーまたはデコードセッションタイムアウトを解放するまで続きます。ホストは、コマンド「\$\$%^ 7400」を Easyset などのアプリケーション経由でリーダーに送信して、デコードセッションをアクティブにすることもできます。



トリガーモード（デフォルト）

センスモード

リーダーは、提示されたバーコードを検出するたびに、デコードセッションをアクティブにします。デコードセッションは、バーコードがデコードされるか、デコードセッションタイムアウトの期限が切れるまで続きます。再読み取りタイムアウトにより、一定の時間内に同じバーコードが不要に再読み取りされるのを回避できます。感度は、キャプチャされた画像の変化に対するセンスモードの感度を変える可能性があります。画像安定化タイムアウトは、リーダーがバーコードをデコードして別のものを「探す」後、周囲環境に適応する時間を与えます。



センスモード

デコードセッションタイムアウト

このパラメーターは、スキャン試行中にデコードセッションが継続する最大時間を設定します。0 秒から 15 秒まで 1 秒刻みでプログラム可能です。0 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルト設定は 3 秒です。この機能は、センスモードにのみ適用されます



デコードセッションタイムアウト

デコード間のタイムアウト

デコード間のタイムアウトは、1 つのデコードセッションの終了から次のセッションの開始までの時間を設定します。15 のレベルから選択できます。500ms（レベル 1）から 7500ms（レベル 15）まで 500ms 刻みでプログラム可能です。デフォルト設定はレベル 2 です。この機能はセンスモードにのみ適用されます



デコード間のタイムアウト

リーダー感度

リーダー感度は、取込をした画像に対するリーダーの反応の感度を指定します。値が小さいほど、感度が高くなり、リーダーをトリガーするための画像変更の要件が低くなります。アプリケーション環境に合った適切な感度を選択できます。この機能は、センスモードにのみ適用されます。



感度 中 (デフォルト)



感度 低



感度 高

スキャンモード (2D リーダー)

トリガーモード

トリガーを引くと、デコードセッションがアクティブになります。デコードセッションは、バーコードがデコードされるか、トリガーまたはデコードセッションタイムアウトを解放するまで続きます。ホストは、コマンド「\$\$%^ 7400」を Easyset などのアプリケーション経由でリーダーに送信して、デコードセッションをアクティブにすることもできます。



トリガーモード (デフォルト)

センスモード

リーダーは、提示されたバーコードを検出するたびに、デコードセッションをアクティブにします。デコードセッションは、バーコードがデコードされるか、デコードセッションタイムアウトの期限が切れるまで続きます。再読み取りタイムアウトにより、一定の時間内に同じバーコードが不要に再読み取りされるのを回避できます。感度は、キャプチャされた画像の変化に対するセンスモードの感度を変更する可能性があります。画像安定化タイムアウトは、リーダーがバーコードをデコードして別のものを「探す」後、周囲環境に適応する時間を与えます。



センスモード

デコードセッションタイムアウト

このパラメーターは、スキャン試行中にデコードセッションが継続する最大時間を設定します。タイムアウトになるか、バーコードが読み取られると、リーダーは周囲の照明の監視に戻ります。100ms から 3,600,000ms まで 1ms 刻みでプログラム可能です。0 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルト設定は 3,000ms です。



デコードセッションタイムアウト

例：デコードセッションタイムアウトを 1500ms に設定します。

1. デコードセッションタイムアウトバーコードをスキャンします。
2. 付録の「桁バーコード（2D リーダー）」セクションから数値バーコード「1」、「5」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

手ぶれ補正タイムアウト

このパラメーターは、リーダーがバーコードをデコードして別のものを「探す」後、周囲環境に適応するのに費やす時間を定義します。0ms から 1600ms までプログラム可能です。デフォルト設定は 500ms です。



手ぶれ補正タイムアウト（センスモード）

例：手ぶれ補正タイムアウト（検知モード）を 500ms に設定します。

1. 画像安定化タイムアウト（センスモード）バーコードをスキャンします。
2. 付録の「桁バーコード（2D リーダー）」セクションから数値バーコード「5」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

読み取り成功後

読み取り成功後の継続： 読み取り成功後、リーダーは次の読み取りセッションを開始します。

読み取り成功後の一時停止： 読み取り成功後、リーダーは照明監視と画像安定化の別のラウンドを開始します。



読み取り成功後に一時停止（デフォルト）



よく読んだ後も続ける

デコード間のタイムアウト（同じバーコード）

デコード間のタイムアウト（同じバーコード）により、一定の時間内に同じバーコードが不要に再読み取りされるのを回避できます。

デコード間のタイムアウトを無効（同じバーコード）：

エンジンが同じバーコードを再度読み取ることができるようにします。

デコード間のタイムアウト（同じバーコード）の有効化とタイムアウトのリセットオフ：

デコード間のタイムアウト（同じバーコード）が期限切れになる前に、エンジンが同じバーコードを再度読み取することを許可しません。

デコード間のタイムアウトを有効（同じバーコード）&タイムアウトをリセットする：

エンジンが同じバーコードを再度読み取することを許可しません。



デコード間のタイムアウトを無効
（同じバーコード）（デフォルト）



デコード間のタイムアウトを有効
（同じバーコード）



リセットタイムアウトオフ（デフォルト）



タイムアウトをリセット

次のパラメーターは、同じバーコードの読み取り間のタイムアウトを設定します。0ms から 65,535ms まで 1ms 刻みでプログラム可能です。デフォルト設定は 1,500ms です。



デコード間のタイムアウト（同じバーコード）

例：デコード間のタイムアウト（同じバーコード）を 1000ms に設定します。

1. デコード間のタイムアウト（同じバーコード）バーコードをスキャンします。
2. 付録の「桁バーコード（2D リーダー）」セクションから数値バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

感度

感度は、周囲の照明の変化に対するリーダーの反応の鋭さの程度を指定します。感度が高いほど、リーダーをトリガーするための照明変化の要件が低くなります。周囲の環境に合った適切な感度を選択できます。



感度 中（デフォルト）



感度 低



感度 高



感度の向上

動作モード

リーダーには、Bluetooth モードと USB モードの 2 つの動作モードがあります。これら 2 つのモードを切り替えるには、[SCAN ボタン]と[ファンクションボタン]を同時に 3 秒間押すか、USB モードまたは Bluetooth モードのバーコードをスキャンします。

Bluetooth モード



Bluetooth モード（デフォルト）

リーダーが Bluetooth モードの場合、以下の適切なバーコードをスキャンして、目的のプロファイルを選択できます。



HID（デフォルト）



SPP



BLE

Bluetooth を介したデータ送信には、同期送信、非同期送信、バッチ送信の 3 つのタイプがあります。

同期転送（デフォルト）： バーコードをスキャンすると、データはスマートフォン/タブレットに直接送信されます。Bluetooth サービスの範囲外の場合、スキャンしたデータは失われます。

非同期送信： Bluetooth サービス範囲外の場合、スキャンしたデータはフラッシュメモリに保存されます。サービス範囲に戻ると、データはスマートフォン/タブレ

ットに自動的に送信されます。スマートフォン/タブレットがデータを受信した後、リーダーは自動的にフラッシュメモリからそれを削除します。

バッチ送信：

Bluetooth サービス範囲内かどうかに関係なく、スキャンしたデータはフラッシュメモリに保存されます。保存されたデータは、次のいずれかの方法でスマートフォン/タブレットに送信できます。

1. リーダーの[ファンクションボタン]を 3 秒間押し続けます（注：データ転送を一時停止/再開するには、[ファンクションボタン]を短く押します）。
2. [保存されたデータの送信]バーコードをスキャンします。または
3. 対応するシリアルコマンドをリーダーに送信します（「シリアルプログラミングコマンド」マニュアルを参照）。



同期伝送、Bluetooth（デフォルト）



非同期伝送、Bluetooth



バッチ送信



Bluetooth 送信 1 保存データ

リーダーが Bluetooth バッチモードの場合、次の機能は自動的に有効になります。

データの受信の確認：リーダーは送信後もすべての保存データを保持します。これにより、ユーザーはデータが適切に受信されたかどうかを確認し、必要に応じてデータを再送信することができます。フラッシュメモリに保存されているすべてのデータを削除するには、[SCAN ボタン]と[Delete ボタン]を同時に 3 秒間押し続けるか、[すべての保存データをクリア]バーコードをスキャンするか、対応するシリアルコマンドをリーダーに送信します。

USB モード



USB モード

リーダーが USB モードの場合、以下の適切なバーコードをスキャンして、目的のプロトコルを選択できます。



USB HID-KBW (デフォルト)



USB CDC

USB を介したデータ送信には、非同期送信とバッチ送信の 2 種類があります。

非同期送信（デフォルト）： リーダーが USB ケーブルで PC に接続されていない場合、スキャンされたデータはフラッシュメモリに保存されます。リーダーが PC に USB ケーブルで接続されている場合、スキャンされたデータは PC に直接送信されます。

一括送信： リーダーが PC に接続されているかどうかに関係なく、スキャンされたデータはフラッシュメモリに保存されます。

次の手順に従って、USB 経由でフラッシュメモリから PC にデータを同期できます。

ステップ 1： USB CDC が有効になっている場合は、（<https://www.busicom.co.jp/h/manual.html>）のビジコム Web サイトから UFCOM ドライバーをダウンロードし、PC にインストールします。USB HID-KBW が有効になっている場合、ドライバーは必要ありません。

ステップ 2： USB ケーブルでリーダーを PC に接続します。それらの間の接続が確立されると、リーダーはビープ音を鳴らします。

ステップ 3 : USB CDC が有効になっている場合は、PC で COM ツールを開き、カーソルが常にその中にあることを確認します。USB HID-KBW が有効になっている場合は、PC でメモ帳または Office Word を開き、カーソルが常にその中にあることを確認してください。リーダーの[ファンクションボタン]を 3 秒間押し続けるか、「保存データの送信」バーコードをスキャンして、フラッシュメモリから PC へのデータ送信を開始します。送信が完了すると、リーダーからビープ音が鳴ります。



バッチ送信、USB



非同期伝送、USB（デフォルト）



保存されたデータを送信

リーダーが USB バッチモードの場合、次の機能は自動的に有効になります。さらに、以下の適切なバーコードをスキャンして、USB 非同期モードでこの機能を有効または無効にすることができます。

データの受信の確認：リーダーは送信後、保存されたすべてのデータを保持します。これにより、ユーザーはデータが適切に受信されたかどうかを確認し、必要に応じてデータを再送信することができます。フラッシュメモリに保存されているすべてのデータを削除するには、[SCAN ボタン]と[Delete ボタン]を同時に 3 秒間押し続けるか、[すべての保存データを消去]バーコードをスキャンするか、対応するシリアルコマンドをリーダーに送信します。

データの受信を確認しない：保存されたすべてのデータは、送信後に自動的に削除されます。



データの受信を確認しない（デフォルト）



データの受信を確認

注意：

リーダーがある動作モードから別の動作モードに切り替わると、対応する LED 通知とともにビープ音が鳴ります（詳細については、第 1 章の「LED 通知」セクションを参照してください）。

上記の方法の他に、[SCAN ボタン]と[ファンクションボタン]を同時に 3 秒間押して、Bluetooth モードと USB モードを切り替えることもできます。

同じバーコードストレージを防止

この機能は、自動または手動バッチモードでバーコードをスキャンする場合にのみ使用できます。

オン： フラッシュメモリに存在するバーコードを検出すると、リーダーはデータを破棄し、エラービープ音を生成します。

オフ： フラッシュメモリに存在するバーコードが検出されると、リーダーはデータを保存します。



オフ



オン

製品情報のクエリ



組み込みスキャンエンジンの
ファームウェアバージョンのクエリ



製品の製造日を問い合わせる



製品のシリアル番号を問い合わせる



製品のファームウェアとハードウェア
のバージョンを問い合わせる

フラッシュに保存されたデータのクエリ/削除



保存されているバーコードの数を問い合わせる



保存されているすべてのデータをクリア

サウンド通知

以下の適切なバーコードをスキャンして、サウンド通知をオンまたはオフにします。この機能を有効にすると、次のいずれかのイベントが発生したときにリーダーからビープ音が鳴ります。

1. リーダーの電源が入っています。
2. リーダーがリセットされます。
3. バーコードがデコードされます（フラッシュメモリからバーコードデータを削除するための適切な読み取りを含む）。
4. リーダーが Bluetooth モードまたは USB モードに切り替わりました。
5. Bluetooth を介したデータの送信に失敗しました。
6. iOS ソフトキーボードがオンまたはオフになっています。
7. Bluetooth または USB 経由のバッチデータ送信が始まります。
8. Bluetooth または USB 経由のバッチデータ送信が中断されます。
9. Bluetooth または USB 経由のバッチデータ送信が完了しました。
10. ペアリングされた Bluetooth デバイスはリーダーとペアリングされていません。
11. リーダーの電源がオフになっています。
12. リーダーとホストデバイス間の USB 接続が確立されました。
13. リーダーとホストデバイス間の USB 接続が失われました。
14. リーダーとホストデバイス間の Bluetooth 接続が確立されたか、失われました。



サウンド通知オン（デフォルト）



通知音オフ

振動通知

以下の適切なバーコードをスキャンして、振動通知をオンまたはオフにします。この機能を有効にすると、次のいずれかのイベントが発生したときにリーダーが振動します。

1. バーコードがデコードされます（フラッシュメモリからバーコードデータを削除するための適切な読み取りを含む）。
2. リーダーが Bluetooth モードまたは USB モードに切り替わりました。
3. iOS ソフトキーボードがオンまたはオフになっています。
4. ペアリングされた Bluetooth デバイスとリーダーのペアリングが解除されます。
5. Bluetooth または USB 経由のバッチデータ送信が始まります。
6. リーダーがオフになっています。



振動通知オン



振動通知オフ（デフォルト）

Bluetooth ペアリングを削除



Bluetooth ペアリングを削除

自動/手動電源オフ

デフォルトでは、リーダーで 30 分間操作が行われないと、リーダーの電源が自動的にオフになります。この機能は、バッテリー寿命を延ばすのに役立ちます。



自動電源オフタイマーのクエリ

自動電源オフタイマーの設定：[自動電源オフタイマーの設定]バーコードをスキャンしてから、以下にリストされているタイマーの 1 つをスキャンします。



自動電源オフタイマーの設定



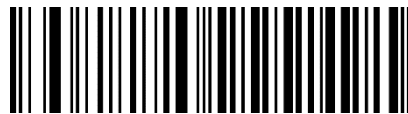
電源オフタイマー 5 分間



電源オフタイマー 10 分間



電源オフタイマー 20 分間



電源オフタイマー 30 分間 (デフォルト)



電源オフタイマー 60 分間



電源オフタイマー 設定しない

以下のバーコードをスキャンして、手動でリーダーの電源を切ることができます。



電源オフ

注意： 電源オフバーコードがスキャンされた後、リーダーは長いビープ音を発してからオフになります。

Bluetooth デバイス名

BS80 リーダーのデフォルトの Bluetooth デバイス名は、モデル名「BS80 +」（ユーザーがプログラム可能）とデバイスの MAC アドレスの最後の 4 文字（BS80 + E4AC など）を組み合わせたものです。最大 20 文字のモデル名を設定できます。モデル名を変更するには、[Bluetooth デバイス名の変更]バーコード、目的の名前に含まれる各文字の 16 進値を表す数値バーコード、および保存バーコードをスキャンします。



Bluetooth デバイス名の変更

例：Bluetooth デバイス名（モデル名）を「NLS1」に変更（16 進数：0x4E / 0x4C / 0x53 / 0x31）

1. Bluetooth デバイス名の変更バーコードをスキャンします。
2. 付録の「桁バーコード」セクションから数値バーコード「4」、「E」、「4」、「C」、「5」、「3」、「3」、「1」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから保存バーコードをスキャンします。

無効なホストデータに対する応答

デフォルトでは、ホストから無効なコマンドを受信すると、リーダーは¥ r ¥ n \$\$%~ER ¥ r ¥ n を返します。以下の適切なバーコードをスキャンして、リーダーがこのメッセージを送信しないようにすることができます。

サポートされているコマンドのリストについては、BS80 シリアルプログラミングコマンドを参照してください。



**無効なホストデータに対する応答を有効



無効なホストデータに対する応答を無効

バーコードセパレーター

最大 10 文字（デフォルト：なし）のセパレーターをバーコードの間に挿入できます。この機能は、Bluetooth または USB バッチ送信が選択されており、パケットモードがオフになっているという 2 つの条件が満たされた場合にのみ使用できます。この機能を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンしてください。バーコードセパレーターを有効にすると、プリセットセパレーターがバーコード間に挿入され、一括送信完了後に 3 回送信されます。



バーコードセパレーターを有効



バーコードセパレーターを無効（デフォルト）

バーコードセパレーターを設定するには、Set Barcode Separator バーコード、目的のセパレーターに含まれる各文字の 16 進値を表す数値バーコード、および Save バーコードをスキャンします。



バーコードセパレーターを設定



クエリバーコードセパレーター

例：バーコードセパレーターを「*」に設定（16 進数：0x2A）

Set Barcode Separator バーコードをスキャンします。

付録の「数字バーコード」セクションから数値バーコード「2」と「A」をスキャンします。

付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから保存バーコードをスキャンします。

パケットモード

パケットモードがオフの場合、データは未加工形式（パケット化されていない）で送信されます。

パケットモードがオンの場合、データは以下で定義されたパケット形式で送信され、ホストまたはリーダーが受信したときにデータの整合性が保証されます。バッチ送信の場合、リーダーは 0x7E、0x01、0x30、0x30、0x30、0x30、0x00、0x00、0x3B、0x03、0x00 を送信して、ホストにバッチ送信の完了を通知します。

この機能は、Bluetooth SPP / BLE または USB CDC を使用している場合にのみ使用できることに注意してください。

パケット形式： {Header} {LEN} {DATA} {Trailer} {Checksum}
ヘッダー： 0x7E 0x01 0x30 0x30 0x30 0x30 LEN：DATA の長さ、2 バイト
DATA： リーダーが送信したバーコードデータまたはホストデバイスが送信したプログラミングコマンド Trailer：0x3B 0x03
チェックサム： 計算シーケンス：0x00 + DATA; 計算方法は、バイトごとの XOR です。

ホスト応答： {Header} {Response Value} {Response Method} {Trailer}
ヘッダー： 0x02 0x01
応答値： 0x06 (ACK) または 0x15 (NAK) 応答方法：0x00 (操作なし)、または 0x01 (ACK の短い高音のビーブ音 2 回、NAK の低音のビーブ音 1 回)、または 0x02 (ACK の場合は 200ms の長さの振動、NAK の場合は 1s の長さの振動)
トレーラー： 0x3B 0x03

リーダーの応答： {Header} {Response Value} {Trailer}

ヘッダー： 0x02 0x01

応答値： 0x06 (ACK) または 0x15 (NAK)

トレーラー： 0x3B 0x03



パケットモードオン

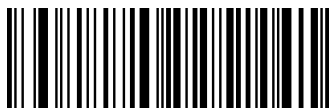


パケットモードオフ（デフォルト）

NAK / ACK 再試行カウント

このパラメーターは、ホストからの ACK 応答を待つときに、リーダーがバーコード転送を再試行する回数を指定します。このパラメーターを機能させるには、パケットモードをオンにする必要があります。

選択範囲は 1～8 回です。デフォルト値は 2（再試行）です。



ACK / NAK 再試行カウントの設定

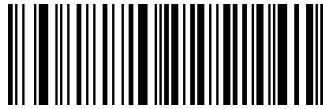
例：ACK / NAK 再試行回数を 1 に設定します

1. Set ACK / NAK Retry Count バーコードをスキャンします。
2. 付録の「桁バーコード」セクションから数値バーコード「1」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから保存バーコードをスキャンします。

NAK / ACK タイムアウト

このパラメーターは、リーダーがバーコード転送に続いてホストからの ACK 応答を待つ時間を指定します。0ms から 15,000ms まで 1ms 刻みでプログラム可能です。0 を選択すると、タイムアウトが無効になります。デフォルトのタイムアウトは 200 ミリ秒です。このパラメーターを機能させるには、パ

ケットモードをオンにする必要があります。



ACK / NAK タイムアウトの設定

例：ACK / NAK タイムアウトを 100ms に設定する

1. Set ACK / NAK Timeout バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes」セクションから数値バーコード「1」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから保存バーコードをスキャンします。

製品シリアル番号

製品のシリアル番号を送信するかどうかを、有効または無効にして選択できます。



製品のシリアル番号を有効



製品のシリアル番号を無効（デフォルト）

タイムスタンプ

タイムスタンプを有効または無効にすることで、日付と時刻を送信するかどうかを選択できます。



タイムスタンプを有効



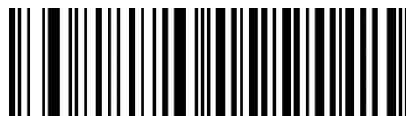
タイムスタンプを無効（デフォルト）

日付形式を設定



Format 1: mm/dd/yyyy

(例 : 23/01/2011)



Format 2: dd/mm/yyyy

(例 : 01/23/2011)



Format 3: yyyy/mm/dd (デフォルト)

(例 : 2011/01/23)



現在の日付と時刻のクエリ

USB HID-KBW / Bluetooth HID のパラメーター

キーボードの種類



US English (デフォルト)



Belgium



Brazil



Canada



Czech



Denmark



Finland



France



Germany, Austria



Greece



Hungary



Israel



Italy



Latin America, South America



Netherlands



Norway



Poland



Portugal



Romania



Russia



Slovakia



Spain



Sweden



Switzerland



Turkey_F



Turkey_Q



UK



Japan

文字コード



ISO-8859-1 (デフォルト)



UTF-8

大文字と小文字を変換



大文字小文字変換なし (デフォルト)



すべて大文字に変換



すべてを小文字に変換



大文字と小文字を逆にする

Alt +キーパッドをエミュレートする

この機能により、どのキーボードタイプを選択しても、ASCII 文字（0x00-0xFF）をテンキーを介して送信できます。文字の送信には複数のキーストロークエミュレーションが含まれるため、この方法は効率が悪いように見えます。この機能は、Android / iOS デバイスでは使用できません。

次のオプションを使用できます。

無効： Alt +キーパッドの方法で ASCII 文字は送信されません。

モード 1： 選択したキーボードタイプではサポートされていないが 0x20～0xFF に該当する ASCII 文字は、ALT +キーパッドで送信されます。

モード 2： 0x20～0xFF に分類される ASCII 文字は、ALT +キーパッドの方法で送信されます。

モード 3： 0x00～0xFF に該当する ASCII 文字は、ALT +キーパッドの方法で送信されます。

注意： ファンクションキーマッピングとモード 3 が競合する場合は、ファンクションキーマッピングが優先されます。



無効にする（デフォルト）



モード 1



モード 2



モード 3

例：US キーボードが選択されているとすると、バーコードデータ「ADF」（65/208/70）は次のように送信されます。

①モード 1 が有効になります。

- 「A」 - キーストローク「A」
- 「D」 - 「ALT Make」 + 「208」 + 「ALT Break」
- 「F」 - キーストローク「F」

②モード 3 が有効です。

- 「A」 - 「ALT Make」 + 「065」 + 「ALT Break」
- 「D」 - 「ALT Make」 + 「208」 + 「ALT Break」
- 「F」 - 「ALT Make」 + 「070」 + 「ALT Break」

ファンクションキーマッピング

ファンクションキーマッピングが有効になっている場合、ファンクション文字（0x00-0x1F）はキーパッドを介して ASCII シーケンスとして送信されます。詳細については、付録の「ASCII ファンクションキーマッピングテーブル」を参照してください。この機能は、Android / iOS デバイスでは使用できません。




ファンクションキーマッピングを有効



ファンクションキーマッピングを無効（デフォルト）

例：バーコードデータ 0x16

 T	ファンクションキーマッピングを有効	Ctrl+V
	Disable Function Key Mapping	F1

数値キーパッドをエミュレートする

この機能を無効にすると、バーコードデータの送信はメインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

この機能を有効にするには、数値キーパッドのエミュレートバーコードをスキャンします。数値（0～9）の送信は、テンキーのキーストロークとしてエミュレートされますが、「+」、「-」、「*」、「/」、「。」などの他の文字の送信はエミュレートされます。メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

この機能は、Android / iOS デバイスでは使用できません。



数値キーパッドをエミュレートする



数値キーパッドをエミュレートしない（デフォルト）

コードページ

コードページプログラミング機能は、より多くの国際文字をサポートするために提供されています。この機能は、ASCII 文字が Alt + キーパッドの方法で送信される場合にのみ有効です。



Windows 1252 (Latin I)（デフォルト）



Windows 1251（キリル文字）

例 1：ISO-8859-1 でエンコードされたロシア語の適切な出力を取得するようにリーダーを設定する

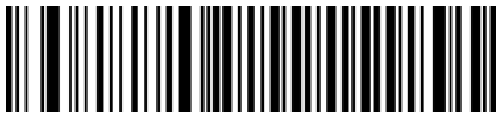
1. Windows 1251 バーコードをスキャンします。
2. この章の「ALT + キーパッドのエミュレート」セクションからモード 3 バーコードをスキャンします。
3. この章の「文字エンコーディング」セクションから ISO-8859-1 バーコードをスキャンします。

例 2 : UTF-8 でエンコードされたロシア語の適切な出力を取得するようにリーダーを設定する

1. Windows 1251 (キリル文字) バーコードをスキャンします。
2. この章の「ALT +キーパッドのエミュレート」セクションからモード 3 バーコードをスキャンします。
3. この章の「文字エンコーディング」セクションから UTF-8 バーコードをスキャンします。

Bluetooth HID の文字間遅延

送信中のデータ損失を回避するために、適切な文字間遅延を選択してください。 このパラメーターは、Bluetooth HID モードでのみ有効です。



0ms



5ms



15ms (デフォルト)



25ms



35ms



45ms



クエリの文字間遅延

USB HID-KBW のキーストローク間遅延

キーストローク間の遅延を設定するには、以下の「キーストローク間の遅延の設定」バーコードと目的の値のバーコードをスキャンします。



キーストローク間の遅延を設定する



0ms (デフォルト)



1ms



2ms



3ms



4ms



5ms



6ms



7ms



8ms



9ms



10ms



11ms



12ms



13ms



14ms



15ms

第3章：バーコード体系

イントロダクション

すべての記号（バーコードタイプ）には、独自の属性があります。この章では、さまざまなバーコード記号を識別できるようにリーダーを構成するためのプログラミングバーコードについて説明します。リーダーの効率を上げるために、めったに使用されないものを無効にすることをお勧めします。

注意：リーダーがサポートするバーコードの最大長は 3072 バイトです。

1D リーダー

すべてのシンボル体系を有効/無効にする



すべてのシンボルを有効



すべてのシンボル体系を無効

Code 128

工場出荷時のデフォルトに戻します



コード 128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 128 を有効/無効にする



Code 128 を有効（デフォルト）



コード 128 を無効

コード 128 の長さの範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Code 128 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは Code 128 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 128 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Code 128 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes（1D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes（1D Scanner）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

UCC/EAN-128

工場出荷時のデフォルトに戻します



UCC / EAN-128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

UCC / EAN-128 を有効/無効にする



UCC / EAN-128 を有効（デフォルト）



UCC / EAN-128 を無効

UCC / EAN-128 の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの UCC / EAN-128 バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長の UCC / EAN-128 バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの UCC / EAN-128 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む UCC / EAN-128 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

AIM 128

工場出荷時のデフォルトに戻します



AIM 128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

AIM 128 を有効/無効にする



AIM 128 を有効



AIM 128 を無効 (デフォルト)

AIM 128 の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの AIM128 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは最小長または最大長の AIM128 バーコードのみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの AIM128 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む AIM 128 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes（1D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes（1D Scanner）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

EAN-8

工場出荷時のデフォルトに戻します



EAN-8 を工場出荷時のデフォルトに戻す

EAN-8 を有効/無効にする



EAN-8 を有効（デフォルト）



EAN-8 を無効

2桁のアドオンコード

EAN-8 バーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを作成できます。

2桁のアドオンコードを無効： EAN-8 と2桁のアドオンバーコードが提示されると、リーダーはEAN-8をデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードなしでEAN-8バーコードをデコードすることもできます。

2桁のアドオンコードを有効： リーダーは、2桁のアドオンコードがある場合とない場合のEAN-8バーコードの組み合わせを読み取ります。

EAN-8 + 2桁のアドオンコードのみを読み取る： リーダーは、2桁のアドオンコードを含むEAN-8バーコードのみを読み取ります。



2桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



2桁のアドオンコードを有効



EAN-8 + 2桁のアドオンコードのみをデコード

5桁のアドオンコード

EAN-8 バーコードに 5 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを作成できます。

5 桁のアドオンコードを無効： EAN-8 をデコードし、EAN-8 と 5 桁のアドオンバーコードが提示されると、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードなしで EAN-8 バーコードをデコードすることもできます。

5 桁のアドオンコードを有効： リーダーは、5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の EAN-8 バーコードの組み合わせを読み取ります。

EAN-8 + 5 桁のアドオンコードのみをデコード： リーダーは、5 桁のアドオンコードを含む EAN-8 バーコードのみをデコードします。



5 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



5 桁のアドオンコードを有効



EAN-8 + 5 桁のアドオンコードのみをデコード

EAN-8 拡張

EAN-8 ゼロ拡張を無効：EAN-8 バーコードをそのまま送信します。

EAN-8 ゼロ拡張を有効：デコードされた EAN-8 バーコードに 5 つの先行ゼロを追加して、13 桁に拡張します。

EAN-8 を EAN-13 に変換する：デコードされた EAN-8 バーコードに 5 つの先行ゼロを追加して、フォーマットが EAN-13 バーコードと互換性を持つようにします。



EAN-8 ゼロ拡張を無効（デフォルト）



EAN-8 ゼロ拡張を有効



EAN-8 を EAN-13 に変換

チェックキャラクターの送信

EAN-8 は 8 桁の長さで、最後の 1 桁はデータの整合性を検証するために使用されるチェックキャラクターです。



EAN-8 チェックキャラクターを送信
（デフォルト）



EAN-8 チェックキャラクターを送信しない

EAN-13

工場出荷時のデフォルトに戻します



EAN-13 を工場出荷時のデフォルトに戻す

EAN-13 を有効/無効にする



EAN-13 を有効（デフォルト）



EAN-13 を無効

チェックキャラクターの送信

EAN-13 の長さは 13 桁で、最後の 1 桁はデータの整合性を検証するために使用されるチェックキャラクターです。



EAN-13 チェックキャラクターを送信（デフォルト）



EAN-13 チェックキャラクターを送信しない

2桁のアドオンコード

EAN-13 バーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。

2桁のアドオンコードを無効：リーダーはEAN-13をデコードし、EAN-13と2桁のアドオンバーコードが提示されるとアドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードなしでEAN-13バーコードをデコードすることもできます。

2桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2桁のアドオンコードがある場合とない場合のEAN-13バーコードの組み合わせを読み取ります。

EAN-13 + 2桁のアドオンコードのみをデコードする：リーダーは、2桁のアドオンコードを含むEAN-13バーコードのみをデコードします。



2桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



2桁のアドオンコードを有効



EAN-13 + 2桁のアドオンコードのみをデコード

5桁のアドオンコード

EAN-13 バーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。

5桁のアドオンコードを無効： EAN-13 をデコードし、EAN-13 と5桁のアドオンバーコードが提示されると、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードなしで EAN-13 バーコードをデコードすることもできます。

5桁のアドオンコードを有効： リーダーは、5桁のアドオンコードがある場合とない場合の EAN-13 バーコードの組み合わせを読み取ります。

EAN-13 + 5桁のアドオンコードのみをデコード： リーダーは、5桁のアドオンコードを含む EAN-13 バーコードのみをデコードします。



5桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



5桁のアドオンコードを有効



EAN-13 + 5桁のアドオンコードのみをデコード

EAN-13（290 アドオンコードが必要）

この設定は、「290」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「290」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。EAN-13 バーコードは、「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13（378/379 アドオンコードが必要）

この設定は、「378」または「379」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「378」または「379」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。EAN-13 バーコードは、「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 414/419 アドオンコードから必要

この設定は、「414」または「419」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「414」または「419」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。EAN-13 バーコードは、「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13（434/439 アドオンコードが必要）

この設定は、「434」または「439」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「434」または「439」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。EAN-13 バーコードは、「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 977 アドオンコードから

この設定は、「977」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「977」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。EAN-13 バーコードは、「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 978 以降のアドオンコードが必要

この設定は、「978」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「978」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。EAN-13 バーコードは、「2 桁または 5 桁のアドオンコード」機能の選択に応じて処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 979 アドオンコードから必要

この設定は、「979」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「979」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2桁または5桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。EAN-13 バーコードは、「2桁または5桁のアドオンコード」機能の選択に応じて処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

ISSN

工場出荷時のデフォルトに戻します



ISSN を工場出荷時のデフォルトに戻す

ISSN を有効/無効にする



ISSN を有効



ISSN を無効（デフォルト）

ISBN

ISBN を工場出荷時のデフォルトに戻す



ISBN を工場出荷時のデフォルトに戻す

ISBN を有効/無効にする



ISBN を有効



ISBN を無効（デフォルト）

Set ISBN Format



ISBN-13 (デフォルト)



ISBN-10

UPC-E

工場出荷時のデフォルトに戻します



UPC-E を工場出荷時のデフォルトに戻す

UPC-E を有効/無効にする



UPC-E を有効 (デフォルト)



UPC-E を無効

チェックキャラクターの送信

UPC-E は 8 桁の長さで、最後の 1 桁はデータの整合性を検証するために使用されるチェックキャラクターです。



UPC-E チェックキャラクターの送信 (デフォルト)



UPC-E チェックキャラクターを送信しない

2桁のアドオンコード

UPC-E バーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。

2桁のアドオンコードを無効：UPC-E と2桁のアドオンバーコードが提示された場合、リーダーはUPC-E をデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードなしでUPC-E バーコードをデコードすることもできます。

2桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2桁のアドオンコードがある場合とない場合のUPC-E バーコードの組み合わせを読み取ります。

UPC-E + 2桁のアドオンコードのみの読み取り：リーダーは、2桁のアドオンコードを含むUPC-E バーコードのみを読み取ります。



2桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



2桁のアドオンコードを有効



UPC-E + 2桁のアドオンコードのみをデコード

5桁のアドオンコード

UPC-E バーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。

5桁のアドオンコードを無効：UPC-E と5桁のアドオンバーコードが提示されると、リーダーはUPC-E をデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードなしでUPC-E バーコードをデコードすることもできます。

5桁のアドオンコードを有効：リーダーは、5桁のアドオンコードの有無にかかわらず、UPC-E バーコードの組み合わせを読み取ります。

UPC-E + 5桁のアドオンコードのみの読み取り：リーダーは、5桁のアドオンコードを含む UPC-E バーコードのみを読み取ります。



5桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



5桁のアドオンコードを有効



UPC-E + 5桁のアドオンコードのみをデコード

プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブル文字（国コードとシステムキャラクター）は、UPC-E バーコードの一部として送信できます。UPC-E プリアンブルをホストデバイスに送信するには、システムキャラクターのみを送信する、システムキャラクターと国コード（USA の場合は「0」）を送信する、またはプリアンブルを送信しないのいずれかのオプションを選択します。



プリアンブルなし（デフォルト）



システムキャラクター



システムキャラクターと国コード

UPC-E 拡張

UPC-E Extend を無効 : UPC-E バーコードをそのまま送信します。

UPC-E Extend を有効 : UPC-E バーコードを拡張して、長さが UPC-A と互換性があるようにします。

UPC-E から UPC-A への変換 : UPC-E バーコードを拡張して、フォーマットが UPC-A と互換性があるようにします。



UPC-E Extend を無効 (デフォルト)



UPC-E Extend を有効



UPC-E を UPC-A に変換

UPC-A

工場出荷時のデフォルトに戻します



UPC-A を工場出荷時のデフォルトに戻す

UPC-A を有効/無効にする



UPC-A を有効 (デフォルト)



UPC-A を無効

チェックキャラクターの送信

UPC-A の長さは 13 桁で、最後の 1 桁はデータの整合性を検証するために使用されるチェックキャラクターです。



UPC-A チェックキャラクターを送信（デフォルト）



UPC-A チェックキャラクターを送信しない

プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブル文字（国コードとシステム文字）は、UPC-A バーコードの一部として送信できます。

UPC-A プリアンブルをホストデバイスに送信するには、システムキャラクターのみを送信する、システムキャラクターと国コード（USA の場合は「0」）を送信する、またはプリアンブルを送信しないのいずれかのオプションを選択します。



プリアンブルなし



システムキャラクター（デフォルト）



システム文字と国コード

2 桁のアドオンコード

UPC-A バーコードに 2 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。

2 桁のアドオンコードを無効：UPC-A と 2 桁のアドオンバーコードが提示された場合、リーダーは UPC-A をデコードし、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードなしで UPC-A バーコードをデコードすることもできます。

2桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2桁のアドオンコードがある場合とない場合の UPC-A バーコードの組み合わせを読み取ります。

UPC-A + 2桁のアドオンコードのみを読み取る：リーダーは、2桁のアドオンコードを含む UPC-A バーコードのみを読み取ります。



2 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



2 桁のアドオンコードを有効



UPC-A + 2 桁のアドオンコードのみをデコード

5 桁のアドオンコード

UPC-A バーコードに 5 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。

5 桁のアドオンコードを無効：UPC-A と 5 桁のアドオンバーコードが提示された場合、リーダーは UPC-A をデコードし、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードなしで UPC-A バーコードをデコードすることもできます。

5 桁のアドオンコードを有効：リーダーは、5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の UPC-A バーコードの組み合わせを読み取ります。

UPC-A + 5 桁のアドオンコードのみを読み取る：リーダーは、5 桁のアドオンコードを含む UPC-A バーコードのみを読み取ります。



5桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



5桁のアドオンコードを有効



UPC-A + 5桁のアドオンコードのみをデコード

Interleaved 2 of 5

工場出荷時のデフォルトに戻します



Interleaved 2 of 5 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする



Interleaved 2 of 5 を有効（デフォルト）



Interleaved 2 of 5 を無効

文字検証をチェック



無効



検証後にチェックキャラクターを送信しない
(デフォルト)



検証後にチェックキャラクターを送信

Interleaved 2 of 5 の長さの範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長の Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Interleaved 2 of 5 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Interleaved 2 of 5 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

-
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

ITF-6

ITF-6 は特別な種類の Interleaved 2 of 5 で、長さは 6 文字で、最後の文字がチェックキャラクターです。



ITF-6 を工場出荷時のデフォルトに戻す



ITF-6 を無効 (デフォルト)



ITF-6 を有効にし、
チェックキャラクターを送信しない



ITF-6 を有効にし、
チェックキャラクターを送信

注意 : ITF-6 と Interleaved 2 of 5 を同時に有効にしないことをお勧めします。

ITF-14

ITF-14 は Interleaved 2 of 5 の特別な種類で、長さが 14 文字で、最後の文字がチェックキャラクターです。



ITF-14 を工場出荷時のデフォルトに戻す



ITF-14 を有効にし、
チェックキャラクターを送信しない



ITF-14 を無効（デフォルト）



ITF-14 を有効にし、
チェックキャラクターを送信

注：ITF-14 と Interleaved 2 of 5 を同時に有効にしないことをお勧めします。

Deutsche 14

工場出荷時のデフォルトに戻します



Deutsche 14 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Deutsche 14 の有効化/無効化



Deutsche 14 を有効にし、
チェックキャラクターを送信しない



Deutsche 14 を無効（デフォルト）



Deutsche 14 を有効、チェックキャラクターを送信

注意：Deutsche 14、ITF-14、およびインターリーブド 2 of 5 は同じエンコード方式を使用しており、同時に有効にすると、デコード時に互いに混乱する可能性があるため、必要でない限り、Deutsche 14 を有効にしないことをお勧めします。

Deutsche 12

工場出荷時のデフォルトに戻します



Deutsche 12 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Deutsche 12 の有効化/無効化



Deutsche 12 を有効にし、
チェックキャラクターを送信しない



Deutsche 12 を無効（デフォルト）



Deutsche 12 を有効、チェックキャラクターを送信

注意：必要な場合を除いて、ドイツ語 12 を有効にしないことをお勧めします。ドイツ語 12、ITF-12、およびインターリーブド 2 of 5 は同じエンコード方式を使用し、同時に有効にすると、デコード時に互いに混乱しやすくなるためです。

COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)

工場出荷時のデフォルトに戻します



COOP 25 を工場出荷時のデフォルトに戻す

COOP 25 を有効/無効にする



COOP 25 を有効無効にする



COOP 25 (デフォルト)

字検証をチェック



無効にする (デフォルト)



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

COOP 25 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの COOP 25 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは COOP 25 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの COOP 25 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む COOP 25 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

Matrix 2 of 5 (European Matrix 2 of 5)

工場出荷時のデフォルトに戻します



Matrix 2 of 5 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Matrix 2 of 5 の有効化/無効化



Matrix 2 of 5 を有効（デフォルト）



Matrix 2 of 5 を無効

文字検証をチェック



無効にする（デフォルト）



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

Matrix 2 of 5 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Matrix 2 of 5 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長のいずれかである 5 のバーコードの Matrix 2 のみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの 5 つのバーコードの Matrix 2 のみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Matrix 2 of 5 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

Industrial 25

工場出荷時のデフォルトに戻します



Industrial 25 を工場出荷時のデフォルトに戻します

Industrial 25 の有効化/無効化



Industrial 25 を有効（デフォルト）



Industrial 25 を無効

文字検証をチェック



無効にする（デフォルト）



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

Industrial 25 に長さの範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Industrial 25 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長のいずれかでのみ Industrial 25 バーコードを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Industrial 25 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む産業用 25 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

Standard 25

工場出荷時のデフォルトに戻します



Standard 25 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Standard の有効化/無効化



Standard 25 を有効（デフォルト）



Standard 25 を無効

文字検証をチェック



無効にする（デフォルト）



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

Standard 25 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Standard 25 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長よりも長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長のいずれかで Standard 25 バーコードのみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Standard 25 バーコードのみがデコードされます。



小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の Standard 25 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

Code 39

工場出荷時のデフォルトに戻します



Code 39 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 39 を有効/無効にする



Code 39 を有効（デフォルト）



Code 39 を無効

文字検証をチェック



無効にする（デフォルト）



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

スタート/ストップキャラクターを送信

Code 39 では、スタート/ストップキャラクターの両方にアスタリスク（*）を使用しています。

以下の適切なバーコードをスキャンして、スタート/ストップキャラクターを送信するかどうかを選択できます。



スタート/ストップキャラクター送信（デフォルト）



スタート/ストップキャラクターを送信しない

Code 39 Full ASCII の有効化/無効化

リーダーは、以下の適切なバーコードをスキャンすることにより、すべての ASCII 文字を識別するように構成できます。



Code 39 Full ASCII を無効



Code 39 フル ASCII を有効（デフォルト）

Code 39 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Code 39 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは Code 39 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 39 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Code 39 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

Code32 の有効化/無効化

Code 32 は、イタリアの製薬業界で使用されている Code 39 の派生バーコードです。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 32 を有効または無効にします。このパラメーターを機能させるには、Code 39 を有効にし、Code 39 文字検証をチェック無効にする必要があります。



Code32 を無効 (デフォルト)



Code32 を有効

Code 32 プリフィックス

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードへのプリフィックス文字「A」の追加を有効または無効にします。このパラメーターを機能させるには、Code 32 を有効にする必要があります。



Code 32 プリフィックスを無効（デフォルト）



Code 32 プリフィックスを有効

Code 32 チェックキャラクターを送信

このパラメーターを機能させるには、Code 32 を有効にする必要があります。



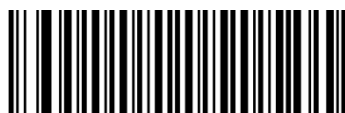
Code 32 のチェックキャラクターを送信しない
（デフォルト）



Code 32 チェックキャラクターを送信

Code 32 のスタート/ストップキャラクターの送信

このパラメーターを機能させるには、Code 32 を有効にする必要があります。



Code 32 の開始/停止文字を送信しない
（デフォルト）



Code 32 の開始/停止文字の送信

NW7(Codabar)

工場出荷時のデフォルトに戻します



NW7 (Codabar) を工場出荷時のデフォルトに戻す

NW7 (Codabar) の有効化/無効化



NW7 (Codabar) を有効 (デフォルト)



NW7 (Codabar) を無効

文字検証をチェック



無効化 (デフォルト)



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

スタート/ストップキャラクターの送信



スタート/ストップキャラクターを送信しない



スタート/ストップキャラクターを送信
(デフォルト)



ABCD/ABCD as
スタート/ストップキャラクター (デフォルト)



ABCD/TN*E as
スタート/ストップキャラクター



abcd/abcd as
スタート/ストップキャラクター



abcd/tn*e as
スタート/ストップキャラクター

NW7 (Codabar) の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの NW7 (Codabar) バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは NW7 (Codabar) バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの NW7 (Codabar) バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む NW7（Codabar）バーコードをデコードするようにリーダーを設定する
最小長の設定バーコードをスキャンします。

1. 付録の「Digit Barcodes（1D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
2. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
3. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
4. 付録の「Digit Barcodes（1D Scanner）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
5. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

Code 93

工場出荷時のデフォルトに戻します



Code 93 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 93 を有効/無効にする



Code 93 を有効（デフォルト）



Code 93 を無効

文字検証をチェック



無効



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない
（デフォルト）

Code 93 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Code 93 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは Code 93 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 93 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Code 93 バーコードをデコードするようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

Code 11

工場出荷時のデフォルトに戻します



Code 11 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 11 を有効/無効にする



Code 11 を有効



Code 11 を無効 (デフォルト)

文字検証をチェック



無効



1 つのチェックキャラクター、MOD11
(デフォルト)



2 つのチェックキャラクター、
MOD11 / MOD11



2 つのチェックキャラクター、
MOD11 / MOD9



1 つのチェックキャラクター、
MOD11 (Len <= 10)
2 つのチェックキャラクター、
MOD11 / MOD11 (Len > 10)



1 つのチェックキャラクター、
MOD11 (Len <= 10)
2 つのチェックキャラクター、
MOD11 / MOD9 (Len > 10)



チェックキャラクターを送信しない
(デフォルト)



チェックキャラクターの送信

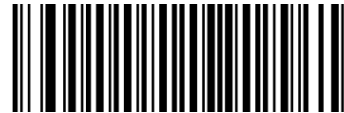
Code 11 の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Code 11 バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは Code 11 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 11 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Code 11 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。

-
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
 4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「Digit Barcodes（1D Scanner）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

Plessey

工場出荷時のデフォルトに戻します



Plessey を工場出荷時のデフォルトに戻す

Plessey の有効化/無効化



Plessey を有効



Plessey を無効（デフォルト）

文字検証をチェック



無効



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない
（デフォルト）

Plessey の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Plessey バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは最小長または最大長の Plessey バーコードのみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Plessey バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の Plessey バーコードを読み取るようにリーダーを設定します

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

MSI-Plessey

工場出荷時のデフォルトに戻します



MSI-Plessey を工場出荷時のデフォルトに戻す

MSI-Plessey の有効化/無効化



MSI-Plessey を有効



MSI-Plessey を無効（デフォルト）

文字検証をチェック



無効



1 つのチェックキャラクター、MOD10
（デフォルト）



2 つのチェックキャラクター、
MOD10 / MOD10



2 つのチェックキャラクター、
MOD10 / MOD11



チェックキャラクターを送信しない
(デフォルト)



チェックキャラクターを送信

MSI-Plessey の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの MSI-Plessey バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは MSI-Plessey バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの MSI-Plessey バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の MSI-Plessey バーコードを読み取るようにリーダーを設定します

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (1D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

GS1 Databar

工場出荷時のデフォルトに戻します



GS1 Databar を工場出荷時のデフォルトに戻す

GS1 Databar を有効/無効にする



GS1 Databar を有効（デフォルト）



GS1 Databar を無効

2D リーダー

全体設定

すべてのシンボル体系を有効/無効にする

[すべてのシンボル体系を無効]機能が有効になっている場合、リーダーはプログラミングバーコード以外の非プログラミングバーコードを読み取ることができません。



すべてのシンボル体系を有効



すべてのシンボル体系を無効

1D シンボル体系の有効化/無効化

1D シンボルを無効にする機能が有効になっている場合、リーダーは 1D バーコードを読み取ることができません。



1D シンボルを有効



1D シンボルを無効

2D シンボルの有効化/無効化

[2D シンボルを無効]機能が有効になっている場合、リーダーは 2D バーコードを読み取ることができません。



2D シンボルを有効



2D シンボルを無効

ビデオリバーズ

ビデオリバーズ機能は、2D バーコードにのみ適用されます。

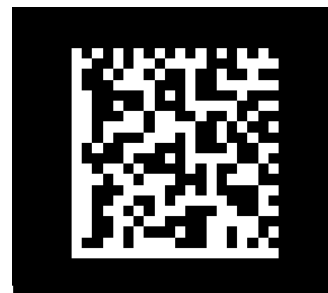
通常のバーコード： 明るい背景に暗い画像。

反転バーコード： 暗い背景に明るい画像。

通常のバーコードと反転バーコードの例を以下に示します。



通常のバーコード



反転バーコード

ビデオリバーズを使用すると、リーダーは反転バーコードを読み取ることができます。

ビデオリバーズオン： 通常のバーコードと反転バーコードの両方を読み取ります。

ビデオリバーズオフ： 通常のバーコードのみを読み取ります。

ビデオリバーズがオンの場合、リーダーのスキャン速度がわずかに低下します。



ビデオリバーズオン



ビデオリバーズオフ（デフォルト）

Code 128

工場出荷時のデフォルトに戻します



Code 128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 128 を有効/無効にする



Code 128 を有効（デフォルト）



Code 128 を無効

Code 128 の長さの範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Code 128 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは Code 128 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 128 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Code 128 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes（2D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。

-
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
 4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「数字バーコード（2D リーダー）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時のデフォルトに戻します



GS1-128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

GS1-128 を有効/無効にする



GS1-128 を有効 (デフォルト)



GS1-128 を無効

GS1-128 の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの GS1-128 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長よりも長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長の GS1-128 バーコードのみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの GS1-128 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む GS1-128 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

AIM-128

工場出荷時のデフォルトに戻します



AIM-128 を工場出荷時のデフォルトに戻す

AIM-128 を有効/無効にする



AIM-128 を有効（デフォルト）



AIM-128 を無効

AIM-128 の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの AIM-128 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは最小長または最大長の AIM-128 バーコードのみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの AIM-128 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の AIM-128 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes（2D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。

-
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
 4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「数字バーコード（2D リーダー）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

EAN-8

工場出荷時のデフォルトに戻します



EAN-8 を工場出荷時のデフォルトに戻す

EAN-8 を有効/無効にする



EAN-8 を有効（デフォルト）



EAN-8 を無効

チェックキャラクターを送信

EAN-8 は 8 桁の長さで、最後の 1 桁はデータの整合性を検証するために使用されるチェックキャラクターです。



EAN-8 チェックキャラクターを送信
（デフォルト）



EAN-8 チェックキャラクターを送信しない

アドオンコード

EAN-8 バーコードに 2 桁または 5 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを作成できます。下の例では、青い点線で囲まれた部分が EAN-8 バーコードで、赤い点線で囲まれた部分がアドオンコードです。



2 桁のアドオンコードを有効
(デフォルト)



2 桁のアドオンコードを無効



5 桁のアドオンコードを有効



5 桁のアドオンコードを無効
(デフォルト)

2 桁のアドオンコードを有効/ 5 桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の EAN-8 バーコードの組み合わせを読み取ります。

2 桁のアドオンコードを無効/ 5 桁のアドオンコードを無効：リーダーは EAN-8 をデコードし、EAN-8 プラスアドオンバーコードが提示されたときにアドオンコードを無視します。また、アドオンコードなしで EAN-8 バーコードをデコードできます。

必要なアドオンコード

[EAN-8 アドオンコードが必要]が選択されている場合、リーダーは、アドオンコードを含む EAN-8 バーコードのみを読み取ります。



EAN-8 アドオンコードが必要



EAN-8 アドオンコードは不要 (デフォルト)

EAN-8 拡張

EAN-8 ゼロ拡張を無効 : EAN-8 バーコードをそのまま送信します。

EAN-8 ゼロ拡張を有効 : デコードされた EAN-8 バーコードに 5 つの先行ゼロを追加して、13 桁に拡張します。



EAN-8 ゼロ拡張を有効



EAN-8 ゼロ拡張を無効（デフォルト）

EAN-13

工場出荷時のデフォルトに戻します



EAN-13 を工場出荷時のデフォルトに戻す

EAN-13 を有効/無効にする



EAN-13 を有効（デフォルト）



EAN-13 を無効

チェックキャラクターを送信



EAN-13 チェックキャラクターを送信（デフォルト）



EAN-13 チェックキャラクターを送信しない

アドオンコード

EAN-13 バーコードに 2 桁または 5 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。



2 桁のアドオンコードを有効



2 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



5 桁のアドオンコードを有効



5 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）

2 桁のアドオンコードを有効/ 5 桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の EAN-13 バーコードの組み合わせを読み取ります。

2 桁のアドオンコードを無効/ 5 桁のアドオンコードを無効：リーダーは EAN-13 をデコードし、EAN-13 に加えてアドオンバーコードが提示されるとアドオンコードを無視します。また、アドオンコードなしで EAN-13 バーコードをデコードできます。

必要なアドオンコード

[EAN-13 アドオンコードが必要]が選択されている場合、リーダーはアドオンコードを含む EAN-13 バーコードのみを読み取ります。



EAN-13 アドオンコードが必要



EAN-13 アドオンコードは不要（デフォルト）

290 から始まる EAN-13 必要なアドオンコード（BS8060-2T の場合）

この設定は、「290」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「290」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。「必要なアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 は 378/379 から始まるアドオンコードが必要（BS8060-2T の場合）

この設定は、「378」または「379」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「378」または「379」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。「必要なアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 414/419 アドオンコードで始まる必要（BS8060-2T の場合）

この設定は、「414」または「419」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「414」または「419」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。「必要なアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 は 434/439 から始まるアドオンコードが必要（BS8060-2T の場合）

この設定は、「434」または「439」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「434」または「439」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。「必要なアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 977 以降のアドオンコードが必要（BS8060-2T の場合）

この設定は、「977」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「977」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。「必要なアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 978 以降のアドオンコードが必要（BS8060-2T の場合）

この設定は、「978」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「978」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。「必要なアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

EAN-13 979 アドオンコードから必要（BS8060-2T の場合）

この設定は、「979」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を要求するようにリーダーをプログラムします。次の設定をプログラムできます。

アドオンコードが必要：「979」で始まるすべての EAN-13 バーコードには、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要です。次に、アドオンコードを含む EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコードを要求しない：[アドオンコードを要求する]を選択していて、この機能を無効にする場合は、[アドオンコードを要求しない]をスキャンします。「必要なアドオンコード」機能の選択に応じて、EAN-13 バーコードが処理されます。



アドオンコードを必要としない（デフォルト）



アドオンコードが必要

ISSN

工場出荷時のデフォルトに戻します



ISSN を工場出荷時のデフォルトに戻す

ISSN を有効/無効にする



ISSN を有効



ISSN を無効（デフォルト）

アドオンコード

ISSN バーコードに 2 桁または 5 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。



2 桁のアドオンコードを有効



2 桁のアドオンコードを無効
（デフォルト）



5 桁のアドオンコードを有効



5 桁のアドオンコードを無効
（デフォルト）

2桁のアドオンコードを有効/ 5桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2桁/ 5桁のアドオンコードの有無にかかわらず、ISSN バーコードの組み合わせを読み取ります。

2桁のアドオンコードを無効/ 5桁のアドオンコードを無効：リーダーはISSN をデコードし、ISSN とアドオンバーコードが提示されたときにアドオンコードを無視します。 また、アドオンコードなしでISSN バーコードをデコードできます。

必要なアドオンコード

[ISSN アドオンコードが必要]が選択されている場合、リーダーはアドオンコードを含む ISSN バーコードのみを読み取ります。



ISSN アドオンコードが必要



ISSN アドオンコードは不要（デフォルト）

ISBN

工場出荷時のデフォルトに戻す



ISBN を工場出荷時のデフォルトに戻す

ISBN を有効/無効にする



ISBN を有効 (デフォルト)



ISBN を無効

ISBN フォーマットを設定



ISBN-13 (デフォルト)



ISBN-10

アドオンコード

ISBN バーコードに 2 桁または 5 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。



2 桁のアドオンコードを有効



2 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



5 桁のアドオンコードを有効



5 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）

2 桁のアドオンコードを有効/ 5 桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の ISBN バーコードの組み合わせを読み取ります。

2 桁のアドオンコードを無効/ 5 桁のアドオンコードを無効：リーダーは ISBN をデコードし、ISBN に加えてアドオンバーコードが提示されたときにアドオンコードを無視します。 また、アドオンコードなしで ISBN バーコードをデコードできます。

必要なアドオンコード

[ISBN アドオンコードが必要]が選択されている場合、リーダーはアドオンコードを含む ISBN バーコードのみを読み取ります。



ISBN アドオンコードが必要



ISBN アドオンコード不要（デフォルト）

UPC-E

工場出荷時のデフォルトに戻します



UPC-E を工場出荷時のデフォルトに戻す

UPC-E を有効/無効にする



UPC-E を有効（デフォルト）



UPC-E を無効

チェックキャラクターを送信



UPC-E チェックキャラクターを送信（デフォルト）



UPC-E チェックキャラクターを送信しない

アドオンコード

UPC-E バーコードに 2 桁または 5 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。



2 桁のアドオンコードを有効



2 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



5 桁のアドオンコードを有効



5 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）

2 桁のアドオンコードを有効/ 5 桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の UPC-E バーコードの組み合わせを読み取ります。

2 桁のアドオンコードを無効/ 5 桁のアドオンコードを無効：リーダーは UPC-E をデコードし、UPC-E とアドオンバーコードが提示されるとアドオンコードを無視します。また、アドオンコードなしで UPC-E バーコードをデコードできます。

必要なアドオンコード

[UPC-E アドオンコードが必要]が選択されている場合、リーダーはアドオンコードを含む UPC-E バーコードのみを読み取ります。



UPC-E アドオンコードが必要



UPC-E アドオンコードは不要（デフォルト）

システム文字「0」を送信

UPC-E バーコードの 1 桁目は、システム文字「0」です。



システム文字「0」を送信（デフォルト）



システム文字「0」を送信しない

UPC-E 拡張

UPC-E Extend を無効 : UPC-E バーコードをそのまま送信します。

UPC-E Extend を有効 : UPC-E バーコードを拡張して、長さが UPC-A と互換性があるようにします。



UPC-E Extend を有効



UPC-E Extend を無効（デフォルト）

UPC-A

工場出荷時のデフォルトに戻します



UPC-A を工場出荷時のデフォルトに戻す

UPC-A を有効/無効にする



UPC-A を有効（デフォルト）



UPC-A を無効

チェックキャラクターを送信



UPC-A チェックキャラクターを送信（デフォルト）



UPC-A チェックキャラクターを送信しない

アドオンコード

UPC-A バーコードに 2 桁または 5 桁のアドオンコードを追加して、新しいコードを形成できます。



2 桁のアドオンコードを有効



2 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）



5 桁のアドオンコードを有効



5 桁のアドオンコードを無効（デフォルト）

2 桁のアドオンコードを有効/ 5 桁のアドオンコードを有効：リーダーは、2 桁/ 5 桁のアドオンコードがある場合とない場合の UPC-A バーコードの組み合わせを読み取ります。

2 桁のアドオンコードを無効/ 5 桁のアドオンコードを無効：リーダーは UPC-A をデコードし、UPC-A とアドオンバーコードが提示されるとアドオンコードを無視します。また、アドオンコードなしで UPC-A バーコードをデコードできます。

必要なアドオンコード

UPC-A Add-On Code Required が選択されている場合、リーダーはアドオンコードを含む UPC-A バーコードのみを読み取ります。



UPC-A アドオンコードが必要



UPC-A アドオンコードは不要（デフォルト）

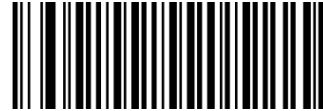
プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブル文字（国コードとシステム文字）は、UPC-A バーコードの一部として送信できます。

UPC-A プリアンブルをホストデバイスに送信するには、システムキャラクターのみを送信するか、システムキャラクターと国コード（米国の場合は「0」）を送信するかを選択します。



システム文字と国コード



システムキャラクター（デフォルト）



プリアンブルなし（システム文字と国コードなし）

Interleaved 2 of 5

工場出荷時のデフォルトに戻します



Interleaved 2 of 5 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする



Interleaved 2 of 5 を有効（デフォルト）



Interleaved 2 of 5 を無効

Interleaved 2 of 5 の長さの範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長の Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Interleaved 2 of 5 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

E 例：8～12 文字を含む Interleaved 2 of 5 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes（2D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。

-
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
 4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「数字バーコード（2D リーダー）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

文字検証をチェック

チェックキャラクターは、Interleaved 2 of 5 ではオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効：リーダーは、Interleaved 2 of 5 バーコードをそのまま送信します。

検証後にチェックキャラクターを送信しない：リーダーはすべての Interleaved 2 of 5 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクターアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

検証後にチェックキャラクターを送信：リーダーはすべての Interleaved 2 of 5 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクターアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、不合格のバーコードは送信されません。



無効（デフォルト）



検証後にチェックキャラクターを送信しない



検証後にチェックキャラクターを送信

ITF-14

ITF-14 は Interleaved 2 of 5 の特別な種類で、長さが 14 文字で、最後の文字がチェックキャラクターです。



ITF-14 を工場出荷時のデフォルトに戻す



ITF-14 を無効



ITF-14 を有効にするが
チェックキャラクターを送信しない（デフォルト）



ITF-14 を有効にするが
チェックキャラクターを送信

注意： ITF-14 と Interleaved 2 of 5 を同時に有効にしないことをお勧めします。

ITF-6

ITF-6 は特別な種類の Interleaved 2 of 5 で、長さは 6 文字で、最後の文字がチェックキャラクターです。



ITF-6 を工場出荷時のデフォルトに戻す



ITF-6（デフォルト）を無効



ITF-6 を有効にするが
チェックキャラクターを送信しない



ITF-6 を有効にして
チェックキャラクターを送信

注意： ITF-6 と Interleaved 2 of 5 を同時に有効にしないことをお勧めします。

Matrix 2 of 5

工場出荷時のデフォルトに戻します



Matrix 2 of 5 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Matrix 2 of 5 の有効化/無効化



Matrix 2 of 5 を有効



Matrix 2 of 5 を無効（デフォルト）

Matrix 2 of 5 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Matrix 2 of 5 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長のいずれかである 5 のバーコードの Matrix 2 のみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの 5 つのバーコードの Matrix 2 のみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Matrix 2 of 5 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. [最小長の設定]バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes（2D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. [最大長を設定]バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes（2D Scanner）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

文字検証をチェック



無効



検証後にチェックキャラクターを送信しない
(デフォルト)



検証後にチェックキャラクターを送信

Industrial 2 of 5

工場出荷時のデフォルトに戻します



Industrial 2 of 5 を工場出荷時のデフォルトに戻します

Industrial 2 of 5 の有効化/無効化



Industrial 2 of 5 を有効（デフォルト）



Industrial 2 of 5 を無効

Industrial 2 of 5 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Industrial 2 of 5 バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長のいずれかでのみ Industrial 2 of 5 バーコードを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Industrial 2 of 5 コードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Industrial 2 of 5 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. [最小長の設定]バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. [最大長を設定]バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

文字検証をチェック



無効 (デフォルト)



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

Standard 25 (IATA 2 of 5)

工場出荷時のデフォルトに戻します



Standard 25 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Standard 25 の有効化/無効化



Standard 25 を有効（デフォルト）



Standard 25 を無効

Standard 25 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Standard 25 バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長よりも長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長のいずれかで Standard 25 バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Standard 25 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の標準 25 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. [最小長の設定]バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes（2D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. [最大長を設定]バーコードをスキャンします。
5. 付録の「Digit Barcodes（2D Scanner）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. の「保存/キャンセルバーコード（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

文字検証をチェック



無効（デフォルト）



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

Code 39

工場出荷時のデフォルトに戻します



Code 39 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 39 の有効化/無効化



Code 39 を有効（デフォルト）



Code 39 を無効

スタート/ストップキャラクターを送信



スタート/ストップキャラクターを送信



スタート/ストップキャラクターを送信しない
（デフォルト）

Code 39 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Code 39 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは Code 39 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 39 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の Code 39 バーコードを読み取るようにリーダーを設定します

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

文字検証をチェック



無効 (デフォルト)



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

Code 39 Full ASCII の有効化/無効化

リーダーは、以下の適切なバーコードをスキャンすることにより、すべての ASCII 文字を識別するように構成できます。



Code 39 Full ASCII を有効（デフォルト）



Code 39 Full ASCII を無効

Code 32 の有効化/無効化（BS8060-2T の場合）

Code 32 は、イタリアの製薬業界で使用されている Code 39 のバリエーションです。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 32 を有効または無効にします。このパラメーターを機能させるには、Code 39 を有効にし、Code 39 チェックキャラクター検証を無効にする必要があります。



Code 32 を無効（デフォルト）



Code 32 を有効

Code 32 プリフィックス（BS8060-2T の場合）

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードへのプリフィックス文字「A」の追加を有効または無効にします。このパラメーターを機能させるには、Code 32 を有効にする必要があります。



Code 32 プリフィックスを無効（デフォルト）



Code 32 プリフィックスを有効

Code 32 のチェックキャラクターを送信（BS8060-2T の場合）

このパラメーターを機能させるには、Code 32 を有効にする必要があります。



Code 32 チェックキャラクターを送信しない
(デフォルト)



Code 32 チェックキャラクターを送信

Code 32 の開始/停止文字の送信（BS8060-2T の場合）

このパラメーターを機能させるには、Code 32 を有効にする必要があります。



Code 32 の開始/停止文字を送信しない（デフォルト）



Code 32 の開始/停止文字を送信

NW7(Codabar)

工場出荷時のデフォルトに戻します



NW7 (Codabar) を工場出荷時のデフォルトに戻す

NW7 (Codabar) の有効化/無効化



NW7 (Codabar) を有効 (デフォルト)



NW7 (Codabar) を無効

NW7 (Codabar) の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの NW7 (Codabar) バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは NW7 (Codabar) バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの NW7 (Codabar) バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む NW7（Codabar）バーコードをデコードするようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes（2D Scanner）」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「数字バーコード（2D リーダー）」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

文字検証をチェック



無効（デフォルト）



検証後にチェックキャラクターを送信



検証後にチェックキャラクターを送信しない

スタート/ストップキャラクターを送信



スタート/ストップキャラクターを送信



スタート/ストップキャラクターを送信しない
(デフォルト)

スタート/ストップキャラクターフォーマット

以下の適切なバーコードをスキャンして、任意のスタート/ストップキャラクターフォーマットを選択できます。



ABCD/ABCD as

スタート/ストップキャラクター (デフォルト)



ABCD/TN*E as

スタート/ストップキャラクター



大文字の

スタート/ストップキャラクター



小文字の

スタート/ストップキャラクター

Code 93

工場出荷時のデフォルトに戻します



Code 93 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 93 を有効/無効にする



Code 93 を有効（デフォルト）



Code 93 を無効

Code 93 の長さ範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Code 93 バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは Code 93 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 93 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Code 93 バーコードをデコードするようにリーダーを設定する

-
1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
 2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
 3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
 4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

文字検証をチェック



無効



検証後にチェックキャラクターを送信しない
(デフォルト)



検証後にチェックキャラクターを送信

GS1-Databar (RSS)

工場出荷時のデフォルトに戻します



GS1-Databar を工場出荷時のデフォルトに戻す

GS1-DataBar を有効/無効にする



GS1-DataBar を有効（デフォルト）



GS1-DataBar を無効にする

アプリケーション識別子「01」を送信



アプリケーション識別子「01」を送信
（デフォルト）



アプリケーション識別子「01」を送信しない

Code 11

工場出荷時のデフォルトに戻します



Code 11 を工場出荷時のデフォルトに戻す

Code 11 を有効/無効にする



Code 11 を有効（デフォルト）



Code 11 を無効

Code 11 の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Code 11 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは Code 11 バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Code 11 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む Code 11 バーコードを読み取るようにリーダーを設定する

-
1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
 2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
 3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
 4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

チェックキャラクターの送信



チェックキャラクターの送信



チェックキャラクターを送信しない (デフォルト)

文字検証をチェック



無効



1 つのチェックキャラクター、
MOD11 (デフォルト)



2 つのチェックキャラクター、
MOD 11 / MOD 11



2 つのチェックキャラクター、
MOD 11 / MOD 9



1 つのチェックキャラクター、
MOD11 (Len <= 10)
2 つのチェックキャラクター、
MOD11 / MOD11 (Len > 10)



1 つのチェックキャラクター、
MOD11 (Len <= 10)
2 つのチェックキャラクター、
MOD11 / MOD9 (Len > 10)

Plessey

工場出荷時のデフォルトに戻します



Plessey を工場出荷時のデフォルトに戻す

Plessey を有効/無効にする



Plessey を有効（デフォルト）



Plessey を無効

Plessey の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Plessey バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは最小長または最大長の Plessey バーコードのみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの Plessey バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の Plessey バーコードを読み取るようにリーダーを設定します

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

文字検証をチェック



無効



検証後にチェックキャラクターを送信しない
(デフォルト)



検証後にチェックキャラクターを送信

MSI-Plessey

工場出荷時のデフォルトに戻します



MSI-Plessey を工場出荷時のデフォルトに戻す

MSI-Plessey の有効化/無効化



MSI-Plessey を有効（デフォルト）



MSI-Plessey を無効

MSI-Plessey の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの MSI-Plessey バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは MSI-Plessey バーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの MSI-Plessey バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の MSI-Plessey バーコードを読み取るようにリーダーを設定します

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。

-
2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
 3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
 4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

チェックキャラクターの送信



チェックキャラクターの送信



チェックキャラクターを送信しない
(デフォルト)

文字検証をチェック



無効



1 つのチェックキャラクター、MOD10
(デフォルト)



2 つのチェックキャラクター、
MOD10 / MOD10



2 つのチェックキャラクター、
MOD10 / MOD11

PDF 417

工場出荷時のデフォルトに戻します



PDF 417 を工場出荷時のデフォルトに戻す

PDF 417 の有効化/無効化



PDF 417 を有効（デフォルト）



PDF 417 を無効

PDF 417 の長さ範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの PDF 417 バーコードのみを読み取るように構成できます。 これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長より長く設定されている場合、リーダーは最小長または最大長の PDF 417 バーコードのみを読み取ります。 最小長が最大長と同じ場合、その長さの PDF 417 バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の PDF 417 バーコードをデコードするようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

PDF 417 ツインコード

PDF417 ツインコードは、垂直方向または水平方向に並列化された 2 つの PDF417 バーコードです。どちらも通常のバーコードまたは逆バーコードでなければなりません。それらは同様の仕様を持ち、密接に配置されている必要があります。

PDF417 ツインコードの読み取りには 3 つのオプションがあります。

シングル PDF417 のみ：どちらかの PDF417 コードを読み取ります。

Twin PDF417 のみ：両方の PDF417 コードを読み取ります。

シングルとツインの両方：両方の PDF417 コードを読み取ります。成功した場合、ツイン PDF417 としてのみ送信します。それ以外の場合は、単一の PDF417 のみを試してください。



単一 PDF417 のみ（デフォルト）



ツイン PDF417 のみ



シングルとツインの両方

QR Code

工場出荷時のデフォルトに戻します



QR コードを工場出荷時のデフォルトに戻す

QR コードを有効/無効にする



QR コードを有効（デフォルト）



QR コードを無効

Micro QR



Micro QR を有効（デフォルト）



Micro QR を無効

QR コードの長さの範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの QR コードバーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長よりも長く設定されている場合、リーダーは QR コードバーコードを最小長または最大長のどちらかでのみ読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの QR コードバーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の QR コードバーコードを読み取るようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

QR ツインコード

QR ツインコードは、縦または横に 2 つの QR バーコードが並列されています。どちらも通常のバーコードまたは逆バーコードでなければなりません。それらは同様の仕様を持ち、密接に配置されている必要があります。QR ツインコードの読み取りには 3 つのオプションがあります。

シングル QR のみ：どちらかの QR コードを読み取ります。

ツイン QR のみ：両方の QR コードを読み取ります。

シングルとツインの両方：両方の QR コードを読み取ります。成功した場合、ツイン QR としてのみ送信します。それ以外の場合は、単一の QR のみを試してください。



シングル QR のみ (デフォルト)



ツイン QR のみ



シングルとツインの両方

Data Matrix

工場出荷時のデフォルトに戻します



Data Matrix を工場出荷時のデフォルトに戻す

Data Matrix の有効化/無効化



Data Matrix を有効（デフォルト）



Data Matrix を無効

Data Matrix の長さの範囲の設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）の長さの Data Matrix バーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。

最小長が最大長よりも長く設定されている場合、リーダーは最小長または最大長のいずれかで Data Matrix バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さの Data Matrix バーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字の Data Matrix バーコードを読み取るようにリーダーを設定します。

-
1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
 2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
 3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
 4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
 5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
 6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

長方形バーコード



長方形バーコードを有効 (デフォルト)



長方形バーコードを無効

ミラーイメージ



ミラーイメージのデコード (デフォルト)



ミラーイメージをデコードしない

Data Matrix ツインコード

Data Matrix ツインコードは、垂直または水平に並列化された 2 つの Data Matrix バーコードです。どちらも通常のバーコードまたは逆バーコードでなければなりません。それらは同様の仕様を持ち、密接

に配置されている必要があります。

Data Matrix ツインコードの読み取りには 3 つのオプションがあります。

単一のデータマトリックスのみ：いずれかのデータマトリックスコードを読み取ります。

Twin Data Matrix のみ：両方の Data Matrix コードを読み取ります。送信順序：左側（上の位置）のデータマトリックスコードの後に右側（下の位置）のコードが続きます。

シングルとツインの両方：両方のデータマトリックスコードを読み取ります。成功した場合は、ツインデータマトリックスとしてのみ送信します。それ以外の場合は、単一のデータマトリックスのみを試してください。



単一のデータマトリックスのみ（デフォルト）



ツインデータマトリックスのみ



シングルとツインの両方

Chinese Sensible Code

工場出荷時のデフォルトに戻します



Chinese Sensible Code の出荷時のデフォルトに戻す

Chinese Sensible Code を有効/無効にする



Chinese Sensible Code を有効



Chinese Sensible Code を無効（デフォルト）

Chinese Sensible Code の長さの範囲を設定

リーダーは、最小長と最大長の間（両端を含む）にある長さの中国の読み取り可能なコードバーコードのみを読み取るように構成できます。これを実現するには、最小長と最大長を設定する必要があります。最小長が最大長よりも長く設定されている場合、リーダーは、最小長または最大長のいずれかで、中国語の読み取り可能なコードバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じである場合、その長さの中国語対応コードバーコードのみがデコードされます。



最小長を設定する



最大長を設定する

例：8～12 文字を含む中国の読み取り可能なコードバーコードをデコードするようにリーダーを設定する

1. 最小長の設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit Barcodes (2D Scanner)」セクションから数値バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。
4. 最大長の設定バーコードをスキャンします。
5. 付録の「数字バーコード (2D リーダー)」セクションから数値バーコード「1」と「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2D リーダー)」セクションから保存バーコードをスキャンします。

第4章：プリフィックス/サフィックス

1D Scanner

バーコードの読み取りに成功すると、数字、文字、または記号を含む文字列が返されます。

実際のアプリケーションでは、バーコードデータがニーズに対して不十分な場合があります。 スキャンするデータに、バーコードタイプ、データ取得時間、区切り文字などの追加情報を含めることができます。

印刷されたバーコードに追加の情報を追加することは、バーコードのサイズが大きくなり、柔軟性がなくなるため、賢明な解決策のように見えません。 代わりに、バーコードを変更せずに、データに接頭辞と接尾辞を追加するというアイデアが思い付きます。 次のセクションでは、構成を行う方法について説明します。

リーダーは、バーコードデータを次の形式で送信するように設定できます。

[コード ID] + [カスタムプリフィックス] + [DATA] + [カスタムサフィックス] + [終了文字]

注意： [DATA]は送信する必要がありますが、残りの部分を送信するかどうかはユーザーが決定できます。

プリフィックスシーケンス



Code ID+Custom+AIM ID (デフォルト)



Custom+Code ID+AIM ID

カスタムプリフィックス

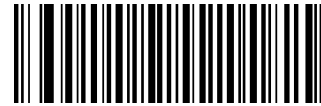
カスタムプリフィックスを有効/無効にする

カスタムプリフィックスが有効な場合、11文字を超えることのできないユーザー定義のプリフィックスをデータに追加できます。

たとえば、バーコードデータが「123」で、カスタムプリフィックスが「AB」の場合、ホストデバイスは「AB123」を受け取ります。



カスタムプリフィックスを無効（デフォルト）



カスタムプリフィックスを有効

カスタムプリフィックスを設定

カスタムプリフィックスを設定するには、[カスタムプリフィックスの設定]バーコード、目的のプリフィックスの16進値を表す数値バーコード、および保存バーコードをスキャンします。

注意：カスタムプリフィックスは11文字を超えることはできません。



カスタムプリフィックスを設定

例：カスタムプリフィックスを「CODE」に設定します（16進数：0x43 / 0x4F / 0x44 / 0x45）

1. カスタムプリフィックスの設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「桁バーコード（1Dリーダー）」セクションから数値バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1Dリーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

AIM ID プリフィックス

AIM (Automatic Identification Manufacturers) ID はシンボル識別子を定義します (詳細については、付録の「AIM ID テーブル (1D リーダー)」セクションを参照してください)。AIM ID プリフィックスが有効になっている場合、リーダーは、デコード後にスキャンされたデータの前に記号識別子を追加します。



AIM ID プリフィックスを有効



AIM ID プリフィックスを無効 (デフォルト)

コード ID プリフィックス

コード ID は、バーコードタイプを識別するためにも使用できます。AIM ID とは異なり、コード ID はユーザーがプログラムできます。コード ID は、1 つまたは 2 つの英字のみで構成されます。



コード ID プリフィックス無効 (デフォルト)



コード ID プリフィックス有効

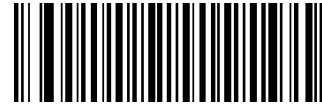
カスタムサフィックス

カスタムサフィックス 有効/無効

カスタムサフィックスが有効な場合、11 文字以内のユーザー定義のサフィックスをデータに追加できます。たとえば、バーコードデータが「123」で、カスタムサフィックスが「AB」の場合、ホストデバイスは「123AB」を受け取ります。



カスタムサフィックス無効（デフォルト）



カスタムサフィックス有効

カスタムサフィックス設定

カスタムサフィックスを設定するには、[カスタムサフィックスの設定]バーコード、目的のサフィックスの16進値を表す数値バーコード、および保存バーコードをスキャンします。

注意：カスタムサフィックスは11文字を超えることはできません。



カスタムサフィックス設定

例：カスタムサフィックスを「CODE」に設定します（16進数：0x43 / 0x4F / 0x44 / 0x45）

1. カスタムサフィックス設定バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit バーコード（1D リーダー）」の項目から数値バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」の項目から保存バーコードをスキャンします。

終端文字サフィックス

終端文字サフィックス 有効/無効

キャリッジリターン（CR）やキャリッジリターン/ラインフィードペア（CRLF）などの終端文字は、データの終わりを示すためにのみ使用できます。つまり、その後に何も追加できません。終端文字のサフィックスは7文字を超えることはできません。



終端文字サフィックスを無効にする（デフォルト）



終端文字サフィックスを有効にする

終端文字サフィックス設定

終端文字のサフィックスを設定するには、[終端文字サフィックス設定]バーコード、目的の終端文字の 16 進値を表す数値バーコード、および保存バーコードをスキャンします。

また、以下の終端文字 0x0D（CR）または終端文字 0x0D、0x0A（CRLF）バーコードをスキャンすることで、終端文字のサフィックスを 0x0D（CR）または 0x0D、0x0A（CRLF）にすばやく設定し、その送信を有効にすることもできます。



終端文字 0x0D（CR）



終端文字 0x0D,0x0A（CRLF）



終端文字サフィックス設定

例：終端文字を「0x0A」（LF）に設定します。

1. 終端文字のサフィックスを設定するバーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit バーコード（1D リーダー）」の項目から数値バーコード「0」と「A」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1D リーダー）」の項目から保存バーコードをスキャンします。

2D リーダー

多くのアプリケーションでは、バーコードデータを編集し、互いに区別する必要があります。

通常は AIM ID とコード ID を識別子として使用することができますが、いくつかの特別なケースでは、カスタマイズされたプリフィックスやキャリッジリターンやラインフィードのような終端文字のサフィックスも代替として使用することができます。

データのフォーマットには次のものがあります：

- ✧ 読み取りされたデータの前に AIM ID /コード ID /カスタムプリフィックスを追加する。
- ✧ 読み取りされたデータの後にカスタムサフィックスを追加する。
- ✧ データの最後に終端文字を追加する。

バーコードデータを編集するときは、次の形式を使用できます。

- ✧ [コード ID] + [カスタムプリフィックス] + [AIM ID] + [データ] + [カスタムサフィックス] + [終端文字]
- ✧ [カスタムプリフィックス] + [コード ID] + [AIM ID] + [データ] + [カスタムサフィックス] + [終端文字]

プリフィックス順



コード ID+カスタムプリフィックス+AIM ID



カスタムプリフィックス+コード ID+AIM ID
(デフォルト)

カスタムプリフィックス

カスタムプリフィックス 有効/無効

カスタムプリフィックスを有効にすると、11 文字以内のユーザー定義のプリフィックスをデータに追加することができます。



カスタムプリフィックス有効



カスタムプリフィックス無効（デフォルト）

カスタムプリフィックスを設定

カスタムプリフィックスを設定するには、[カスタムプリフィックス設定]バーコードと目的のプリフィックスの 16 進値を表す数値バーコードをスキャンしてから、[保存]バーコードをスキャンします。文字の 16 進値については、付録の「ASCII テーブル」を参照してください。

注意：カスタムプリフィックスは 11 文字を超えることはできません。



カスタムプリフィックス設定

例：カスタムプリフィックスを「CODE」に設定します

1. ASCII テーブルで「CODE」の 16 進値を確認します。（「コード」：43、4F、44、45）
2. カスタムプリフィックス設定バーコードをスキャンします。
3. 付録の「Digit バーコード（2D リーダー）」の項目から数値バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」の項目から保存バーコードをスキャンします。

AIM ID プリフィックス

AIM(Automatic Identification Manufacturers) ID と ISO/IEC 15424 規格では、シンボル識別子とデータキャリア識別子が定義されています。(詳細については、付録の「AIM ID テーブル(2D リーダー)」の項を参照してください。AIM ID プリフィックスが有効になっている場合、リーダーは、読み取り後のスキャンデータの前にシンボル識別子を追加します。



AIM ID プリフィックス有効



AIM ID プリフィックス無効 (デフォルト)

コード ID プリフィックス

コード ID は、バーコードタイプを識別するためにも使用できます。AIM ID とは異なり、コード ID はユーザーがプログラムできます。コード ID は、1 つまたは 2 つの英字のみで構成されます。



コード ID プリフィックス有効



コード ID プリフィックス無効 (デフォルト)

すべてのデフォルトのコード ID をリストアする

デフォルトのコード ID については、付録の「コード ID テーブル (2D リーダー)」の項目を参照してください。



すべてのデフォルトのコード ID をリストアする

コード ID 修正

各シンボル体系のコード ID は個別にプログラムできます。コード ID のプログラミング方法については、次の例を参照してください。

例：PDF417 のコード ID を「p」に設定。

1. ASCII テーブルで「p」の 16 進数値を確認します。（「p」：70）
2. PDF417 コード ID の変更バーコードをスキャンします。
3. 付録の「Digit バーコード（2D リーダー）」の項目から数値バーコード「7」と「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」の項目から保存バーコードをスキャンします。



PDF417 コード ID の変更



Data Matrix コード ID の変更



QR コード ID の変更



Chinese Sensible コード ID の変更



Code 128 コード ID の変更



GS1-128 コード ID の変更



AIM-128 コード ID の変更



EAN-8 コード ID の変更



EAN-13 コード ID の変更



UPC-E コード ID の変更



UPC-A コード ID の変更



ISBN コード ID の変更



ISSN コード ID の変更



Code 39 コード ID の変更



Code 93 コード ID の変更



Interleaved 2 of 5 コード ID の変更



ITF-14 コード ID の変更



ITF-6 コード ID の変更



NW7(Codabar)コード ID の変更



Industrial 25 コード ID の変更



Standard 25 コード ID の変更



Matrix 25 コード ID の変更



COOP 25 コード ID の変更



Code 11 コード ID の変更



Plessey コード ID の変更



MSI/Plessey コード ID の変更



GS1 Databar コード ID の変更

カスタムサフィックス

カスタムサフィックス 有効/無効

カスタムサフィックスを有効にすると、11 文字を超えないユーザー定義のサフィックスをデータに追加することができます。



カスタムサフィックス有効



カスタムサフィックス無効（デフォルト）

カスタムサフィックスを設定

カスタムサフィックスを設定するには、[カスタムサフィックスを設定]バーコードと、目的のサフィックスの 16 進値を表す数値バーコードをスキャンしてから、[保存]バーコードをスキャンします。文字の 16 進値については、付録の「ASCII テーブル」を参照してください。

注意：カスタムサフィックスは 11 文字を超えることはできません。



カスタムサフィックスを設定

例：カスタムサフィックスを「CODE」に設定します

1. ASCII テーブルで「CODE」の 16 進値を確認します。（「コード」：43、4F、44、45）

-
2. カスタムサフィックスの設定バーコードをスキャンします。
 3. 付録の「Digit バーコード（2D リーダー）」の項目から数値バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
 4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」の項目から保存バーコードをスキャンします。

終端文字サフィックス

終端文字は、データの終了を示すために使用することができます。終端文字サフィックスには、1～7文字を含めることができます。

終端文字サフィックス 有効/無効

終端文字サフィックスを有効/無効にするには、以下のバーコードをスキャンします。



終端文字サフィックス有効（デフォルト）



終端文字サフィックス無効

終端文字のサフィックスを設定する

リーダーは、終了文字のサフィックスを CR（0x0D）または CRLF（0x0D、0x0A）に設定し、以下の適切なバーコードをスキャンして有効にするためのショートカットを提供します。



キャラクターCRの終了（0x0D）（デフォルト）



文字 CRLF の終了（0x0D,0x0A）

終了文字のサフィックスを設定するには、「終了文字のサフィックスの設定」バーコードと、目的の終了

文字の 16 進値を表す数値バーコードをスキャンしてから、「保存」バーコードをスキャンします。終了文字の 16 進値については、付録の「ASCII テーブル」を参照してください。

注意：終了文字のサフィックスは 7 文字を超えることはできません。



終端文字のサフィックスを設定する

例：終了文字のサフィックスを 0x0A に設定します

1. [終了文字のサフィックスの設定]バーコードをスキャンします。
2. 付録の「Digit バーコード（2D リーダー）」項目ら数値バーコード「0」と「A」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」セクションから保存バーコードをスキャンします。

第5章：スキャン設定

イントロダクション

この章には、リーダーをさまざまなアプリケーションに設定する方法に関する情報が含まれています。たとえば、リーダーの視野を狭めて、ユーザーが意図したバーコードのみが読み取られるようにします。

読み取り領域

全領域読み取り

このオプションを有効にすると、リーダーは視野内のバーコードを中心から周辺まで読み取りし、最初に読み取りされたバーコードを送信します。



全領域デコード（デフォルト）

特定のエリアの読み取り

リーダーは、指定された読み取り領域内のバーコードの読み取りを試み、最初に読み取りされたバーコードを送信します。このオプションを使用すると、リーダーは視野を狭めて、ユーザーが意図したバーコードのみを読み取ることができます。たとえば、複数のバーコードが近接して配置されている場合、適切な事前定義された読み取り領域と組み合わせた特定の領域の読み取りにより、目的のバーコードのみが確実に読み取られます。



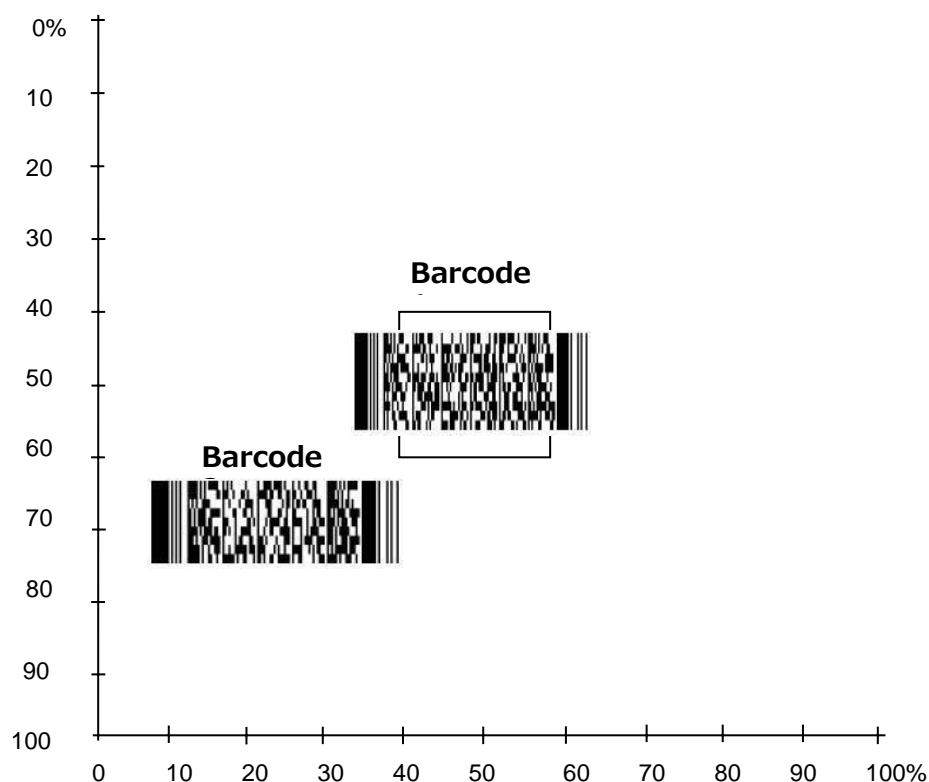
特定の読み取り領域

読み取り領域を指定

特定の読み取り領域が有効になっている場合、リーダーは事前定義されたデコードエリアと交差するバーコードのみを読み取ります。

デフォルトのデコード領域は、下の図に示すように、リーダーの視野の上部 40%、下部 60%、左 40%、右 60%の領域です。次の例では、白いボックスがデコード領域です。バーコード 1 はデコード領域を通過するため、読み取られます。バーコード 2 はデコード領域を通過しないため、読み取られません。

読み取り領域の上部、読み取り領域の下部、読み取り領域の左側、および読み取り領域の右側のバーコード、および目的のパーセンテージ（0~100）を表す数値バーコードを使用して、デコード領域を定義できます。



読み取り領域の上部

読み取り領域の下部



読み取り領域の左側



読み取り領域の右側

例：読み取り領域を上 20%、下 80%、左 20%、右 80%に設定します。

1. 特定の読み取り領域バーコードをスキャンします。
2. 読み取り領域の上部バーコードをスキャンします。
3. 付録「Digit バーコード（2D リーダー）」から数値バーコード「2」と「0」をスキャンします。
4. 付録「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」から保存バーコードをスキャンします。
5. 読み取り領域の下部のバーコードをスキャンします。
6. 付録「Digit バーコード（2D リーダー）」から数値バーコード「8」と「0」をスキャンします。
7. 付録「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」から保存バーコードをスキャンします。
8. 読み取りエリアの左のバーコードをスキャンします。
9. 付録「Digit バーコード（2D リーダー）」から数値バーコード「2」と「0」をスキャンします。
10. 付録「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」から保存バーコードをスキャンします。
11. 読み取り領域のバーコードをスキャンします。
12. 付録「Digit バーコード（2D リーダー）」から数値バーコード「8」と「0」をスキャンします。
13. 付録「バーコードの保存/キャンセル（2D リーダー）」から保存バーコードをスキャンします。

第6章：データフォーマッター

イントロダクション

データフォーマッターを使用して、リーダーの出力を変更できます。たとえば、データフォーマッターを使用して、バーコードデータの特定のポイントに文字を挿入したり、スキャン時にバーコードデータの特定の文字を抑制/置換/送信したりできます。

通常、バーコードをスキャンすると、自動的に出力されます。ただし、フォーマットを作成するときは、フォーマットプログラミング内で「送信」コマンド（この章の「送信コマンド」項目を参照）を使用してデータを出力する必要があります。データフォーマットのフォーマッタコマンドの最大サイズは 128 文字です。デフォルトでは、データフォーマッターは無効になっています。必要に応じて有効にします。データ形式の設定を変更し、すべての形式をクリアして工場出荷時のデフォルトに戻す場合は、以下のデフォルトのデータ形式コードをスキャンしてください。



デフォルトデータフォーマット

データフォーマットの追加

データフォーマットは、バーコードデータの編集にのみ使用されます。最大 4 つのデータフォーマット、つまり Format_0、Format_1、Format_2、および Format_3 をプログラムできます。データフォーマットを作成するときは、データ形式のアプリケーションスコープ（バーコードタイプやデータ長など）を指定し、フォーマッタコマンドを含める必要があります。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件と一致しない場合、不一致エラーのビープ音が鳴ります（不一致エラーのビープがオンの場合）。

データフォーマットをプログラムするには、2 つの方法があります。バーコードを使用したプログラミングとシリアルコマンドを使用したプログラミングです。

バーコードを使用したプログラミング

以下に、特定のバーコードをスキャンしてデータ形式をプログラムする方法を説明します。 無関係なバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングが失敗します。 データ形式を作成するために必要な英数字のバーコードを見つけるには、付録の「数字バーコード」の項目を参照してください。

ステップ 1: データフォーマットの追加バーコードをスキャンします。



ステップ 2: データフォーマットを選択します。

数値バーコード 0 または 1 または 2 または 3 をスキャンして、これを Format_0 または Format_1 または Format_2 または Format_3 に設定します。

ステップ 3: フォーマッタコマンドタイプを選択します。

使用するフォーマッタコマンドのタイプを指定します。 数値バーコード「6」をスキャンして、フォーマッタコマンドタイプ 6 を選択します（詳細については、この章の「フォーマッタコマンドタイプ 6」の項目を参照してください）。

ステップ 4: インターフェイスタイプを設定する

999 をスキャンして、任意のインターフェイスタイプを選択します。

ステップ 5: シンボル ID ナンバー設定

付録の「シンボル ID ナンバー」を参照して、データ形式を適用するシンボルの ID 番号を見つけてください。 シンボル ID 番号の 3 つの数値バーコードをスキャンします。 すべてのシンボル体系のデータ形式を作成する場合は、999 をスキャンします。

ステップ 6 : バーコードデータ長を設定する

このシンボルで許容されるデータの長さを指定します。 データ長を表す 4 つの数値バーコードをスキャンします。 9999 はすべての長さを示すユニバーサル番号です。 たとえば、32 文字は

0032 として入力する必要があります。

ステップ 7 : フォーマッタコマンドを入力する

この章の「フォーマッタコマンドタイプ 6」セクションを参照してください。データを編集するために必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。たとえば、コマンドが F141 の場合、

F141 をスキャンします。コマンドには、最大 112 文字を含めることができます。

ステップ 8 : 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから保存バーコードをスキャンして、データフォーマットを保存します。

例 : フォーマッタコマンドタイプ 6、適用可能な 10 文字を含む Code128 を使用して format_0 をプログラムし、すべての文字の後に「A」を送信します。

- | | |
|--|-------------------------|
| 1. データ形式の追加バーコードをスキャンします | データ形式を追加する。 |
| 2. "0"バーコードをスキャンします。 | format_0 を選択します。 |
| 3. "6"バーコードをスキャンします。 | フォーマッタコマンドタイプ 6 を選択します。 |
| 4. "9"バーコードを 3 回スキャンします。 | 該当するすべてのインターフェイスタイプ。 |
| 5. "002"バーコードをスキャンします。 | Code 128 のみが該当。 |
| 6. "0010"バーコードをスキャンします。 | 長さ 10 文字のみ適用可能。 |
| 7. 英数字バーコード"F141"をスキャンします。
(16 進数 : 41) 。 | 「A」が後に続くすべての文字を送信する |
| 8. "Save"バーコードをスキャンします。 | データフォーマットを保存します。 |

シリアルコマンドによるプログラミング

データフォーマットは、ホストデバイスから送信されるシリアルコマンドによっても作成できます。コマンド文字列の最大サイズは 128 文字です。構文は次の要素で構成されています。

データフォーマットコマンドの追加 : \$\$%^ 5917 (8 文字) 。

データフォーマット：0～3（1文字）。0、1、2、3は、それぞれFormat_0、Format_1、Format_2、およびFormat_3を表します。

フォーマッタコマンドタイプ：6（1文字）。

インターフェイスタイプ：999（3文字）。

シンボルID番号：データ形式を適用するシンボルのID番号（3文字）。999はすべての記号を示します。

データ長：このシンボルで許容されるデータの長さ（4文字）。9999はすべての長さを示します。たとえば、32文字は0032として入力する必要があります。

フォーマッタコマンド：データの編集に使用するコマンド文字列（最大128文字）。詳細については、「フォーマッタコマンドタイプ6」セクションを参照してください。

注意：データ形式の作成に使用するシリアルコマンドは、上記の構文に準拠している必要があります。

「¥ r ¥ n \$\$%～OK ¥ r ¥ n ¥」を返すと成功です。「¥ r ¥ n \$\$%～ER ¥ r ¥ n」を返すと失敗を示します。

例：フォーマッタコマンドタイプ6、適用可能な10文字を含むCode128を使用してformat_0をプログラムし、すべての文字の後に「A」を送信します。

シリアルコマンド：\$\$%^ 5917069990020010F141

データフォーマッター有効/無効

データフォーマッターを無効にすると、有効にしたデータ形式が無効になります。



** データフォーマッター無効

作成したデータ形式に準拠したデータを要求したい場合があります。データフォーマットには、以下の設定を適用することができます。

データフォーマッターを有効、必須、プリフィックス/サフィックスを保持：データ形式の要件を満たすスキャンされたデータはそれに応じて変更され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。データ形式の要件に一致しないデータがあると、エラービープ音が発生し（非一致エラービープ音がオンの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマッターを有効、必須、ドロッププリフィックス/サフィックス：データフォーマット要件を満たすスキャンされたデータは、それに応じて変更され、プリフィックスとサフィックスなしで出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合でも）。データ形式の要件に一致しないデータがあると、エラービープ音が発生し（非一致エラービープ音がオンの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマッターを有効、不要、プリフィックス/サフィックスを保持：データ形式の要件を満たすスキャンされたデータはそれに応じて変更され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。データ形式の要件に一致しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックス（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）と一緒に読み取られて送信されます。

データフォーマッターを有効、不要、プリフィックス/サフィックスを削除：データ形式の要件を満たすスキャンされたデータはそれに応じて変更され、プリフィックスとサフィックスなしで出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合でも）。データ形式の要件に一致しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックス（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）と一緒に読み取られて送信されます。



データフォーマッターを有効、必須、
プリフィックス/サフィックスを保持する



データフォーマッターを有効、必須、
ドロッププリフィックス/サフィックス



データフォーマッターを有効、不要、
プリフィックス/サフィックスを保持



データフォーマッターを有効、不要、
プリフィックス/サフィックスを削除

ノンマッチエラービープ

ノンマッチエラービープがオンになっている場合、必要なデータ形式と一致しないバーコードが検出されると、リーダーはエラービープを発生させます。



** ノンマッチエラービープ オン



ノンマッチエラービープ オフ

データフォーマットを有効

データフォーマッターを有効にしたら、以下の適切なバーコードをスキャンして、使用するデータフォーマットを選択できます。



** Format_0



Format_1



Format_2



Format_3

単一スキャンのデータ形式を変更する

1 回のスキャンでデータ形式を切り替えることができます。次のバーコードは、ここで選択したデータ形式を使用してスキャンされ、上で選択した形式に戻ります。たとえば、リーダーを Format_3 として保存したデータ形式に設定している場合があります。以下のシングルスキャン- Format_1 バーコードをスキャンすることで、単一のトリガープルを Format_1 に切り替えることができます。スキャンされる次のバーコードは Format_1 を使用し、次に Format_3 に戻ります。

注意：この設定は、リーダーの電源を切るか、デバイスをオフにして再起動すると失われます。



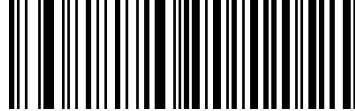
Single Scan - Format_0



Single Scan - Format_1



Single Scan - Format_2



Single Scan - Format_3

クリアデータフォーマット

すべてのデータ形式を削除するには、以下のバーコードをスキャンします。



クリアオールI

クエリデータフォーマット

以下のバーコードをスキャンして、作成したデータフォーマットの情報を取得することができます。例えば、この章の「バーコードを使ったプログラミング」の例のように Format_0 を追加した場合、クエリの結果は Data Format 0:069990020010F141;となります。



クエリデータフォーマット

フォーマットコマンドタイプ 6

データフォーマッターを使用すると、仮想カーソルが入力データ文字列に沿って移動します。次のコマンドを使用して、このカーソルを別の位置に移動し、データを選択、置換、および最終出力に挿入します。コマンドに含まれる ASCII 文字の 16 進値については、付録の「ASCII テーブル」を参照してください。

コマンドを送信する

F1 すべての文字を送信

Syntax = F1xx (xx : 挿入文字の 16 進値)

入力メッセージのすべての文字を現在のカーソル位置から開始し、その後に挿入文字が続く出力メッセージに含めます。

F2 複数の文字を送信する

Syntax = F2nnxx (nn : 文字数の数値 (00-99) 、xx : 挿入文字の 16 進値)

出力メッセージにいくつかの文字とその後に挿入文字を含めます。現在のカーソル位置から開始して、「nn」文字、または入力メッセージの最後の文字まで続け、その後に文字「xx」を続けます。

F2 例 : 複数の文字を送信する



上記のバーコードから最初の 10 文字を送信し、その後に改行を送信します。

コマンド文字列 : F2100D

F2 は「文字を送信」コマンドです

10 は送信する文字数です

0D は CR の 16 進値です

データは次のように出力されます : 1234567890

<CR>

F3 特定の文字までのすべての文字を送信する

Syntax = F3ssxx (ss : 特定の文字の 16 進値、xx : 挿入文字の 16 進値)

入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。現在のカーソル位置にある文字から始まり、特定の文字「ss」は含まれませんが、続けて「xx」が続きます。カーソルが「ss」文字に移動します。

F3 例 : 特定の文字までのすべての文字を送信する



上記のバーコードを使用して、「D」までのすべての文字を送信し、その後に改行を続けます。

コマンド文字列 : F3440D

F3 は「特定の文字までのすべての文字を送信する」コマンドです。

44 は「D」の 16 進数値です。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。1234567890ABC

<CR>

E9 最後の文字以外をすべて送信

Syntax = E9nn (nn : メッセージの最後に送信されない文字数の数値 (00-99))

現在のカーソル位置から開始して、最後の「nn」文字以外のすべてを出力メッセージに含めます。カーソルは、含まれている最後の入力メッセージ文字の 1 つ前の位置に移動します。

F4 文字を複数回挿入する

Syntax = F4xxnn (xx : 挿入文字の 16 進値、nn : 送信回数の数値 (00~99))

カーソルを現在の位置に残したまま、出力メッセージで「xx」文字を「nn」回送信します。

E9 と F4 の例：最後の文字を除くすべてを送信し、その後に 2 つのタブを送信する



上記のバーコードの最後の 8 つを除くすべての文字を送信し、その後に 2 つのタブを送信します。

コマンド文字列：E908F40902

E9 は「最後の文字を除くすべてを送信する」コマンドです。

08 は無視する末尾の文字数です。

F4 は「文字を複数回挿入する」コマンドです。

09 は水平タブの 16 進値です。

02 は、タブ文字が送信された回数です。

データは次のように出力されます。：1234567890AB <tab> <tab>

B3 シンボル名を挿入する

カーソルを移動せずに、出力メッセージにバーコードの記号の名前を挿入します。

B4 挿入バーコード長。

カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。長さは数値ストリングとして表され、先行ゼロは含まれません。

B3 と B4 の例：シンボル名と長さを挿入します。



上記のバーコードからのバーコードデータの前に、シンボル名と長さを送信します。これらの挿入はスペースで区切ります。改行で終了します。

コマンド文字列：B3F42001B4F42001F10D

B3 は「シンボル名の挿入」コマンドです。

F4 は「文字を複数回挿入する」コマンドです。

20 はスペースの 16 進値です。

01 は、スペース文字が送信された回数です。

B4 は「バーコード長を挿入」コマンドです。

F4 は「文字を複数回挿入する」コマンドです。

20 はスペースの 16 進値です。

スペース文字が送信された回数です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます：Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ

<CR>

移動コマンド

F5 カーソルをいくつかの文字だけ前に移動する

Syntax = F5nn (nn：カーソルを前に移動する必要がある文字数の数値 (00～99))

カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字先に移動します。

F5 例：カーソルを前方に移動してデータを送信する



カーソルを 3 文字前に移動してから、上のバーコードから残りのバーコードデータを送信します。改行で終了します。

コマンド文字列：F503F10D

F5 は「カーソルをいくつかの文字だけ前に移動する」コマンドです。

03 はカーソルを移動する文字数です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。 : 4567890ABCDEFGHJ

<CR>

F6 カーソルを数文字後ろに移動する

Syntax = F6nn (nn : カーソルを戻す文字数の数値 (00-99))

カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字後ろに移動します。

F7 カーソルを先頭に移動する

構文 = F7

カーソルを入力メッセージの 1 桁目に移動します。

EA カーソルを最後に移動する

構文 = EA

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。

検索コマンド

F8 前の文字を検索

構文 = F8xx (xx : 検索文字の 16 進値)

現在のカーソル位置から「xx」文字を入力メッセージの前方に検索し、カーソルが「xx」文字をポイントしたままにします。

F8 例 : 特定の文字の後に始まるバーコードデータを送信する。



バーコード内の文字「D」を検索し、「D」を含む後続のすべてのデータを送信します。

上記のバーコードを使用 :

コマンド文字列：F844F10D

F8 は「文字を前方検索」コマンドです。

44 は「D」の 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。：DEFGHIJ

<CR>

F9 文字を後方検索する

構文 = F9xx (xx：検索文字の 16 進値)

入力メッセージを現在のカーソル位置から逆方向に「xx」文字を検索し、カーソルが「xx」文字をポイントしたままにします。

B0 文字列を前方検索する

Syntax = B0nnnnS (nnnn：文字列の長さ (最大 9999)；S：文字列の各文字の ASCII 16 進値)

現在のカーソル位置から「S」文字列を前方検索し、カーソルが「S」文字列を指すようにします。たとえば、B0000454657374 は 4 文字の文字列「Test」の最初の出現を前方検索します。

B0 例：文字列の後に始まるバーコードデータを送信する。



バーコードで「FGH」の文字を検索し、「FGH」を含む、それに続くすべてのデータを送信します。

上記のバーコードを使用。：

コマンド文字列：B00003464748F10D

B0 は「文字列を前方検索」コマンドです。

0003 はストリングの長さ (3 文字) です。

46 は「F」の 16 進数値です。

47 は「G」の 16 進数値です。

48 は「H」の 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。FGHIJ

<CR>

B1 文字列を後方検索する

構文 = B1nnnnS (nnnn : 文字列の長さ (最大 9999) ; S : 文字列の各文字の ASCII 16 進値)

現在のカーソル位置から「S」文字列を後方検索し、カーソルが「S」文字列を指すようにします。たとえば、B1000454657374 は、4 文字の文字列「Test」の最初の出現を後方検索します。

E6 一致しない文字を前方検索する

Syntax = E6xx (xx : 検索文字の 16 進値)

現在のカーソル位置から最初の「xx」以外の文字を入力メッセージの前方で検索し、カーソルが「xx」以外の文字をポイントしたままにします。

E6 例 : バーコードデータの先頭のゼロを削除する。



この例は、ゼロで埋められたバーコードを示しています。ゼロを無視して、後続のすべてのデータを送信することができます。E6 は、0 以外の 1 桁目を前方に検索し、その後すべてのデータを送信し、その後に改行が続きます。上記のバーコードを使用 :

コマンド文字列 : E630F10D

E6 は「一致しない文字を前方検索」コマンドです。

30 は 0 の 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。 : 37692

<CR>

E7 一致しない文字の後方検索する

構文 = E7xx (xx : 検索文字の 16 進数値)

現在のカーソル位置から最初の "xx "以外の文字を検索し、カーソルは "xx "以外の文字を指したまま、入力メッセージを後方に検索します。

その他のコマンド

FB 抑制文字

構文 = FBnnxxyy..zz (nn : 抑止文字数の数値 (00-15) 、xxyy..zz : 抑止する文字の 16 進値)

カーソルは他のコマンドによって進められるため、現在のカーソル位置から最大 15 の異なる文字の出現をすべて抑制します。

FB の例 : バーコードデータのスペースを削除



この例は、データにスペースがあるバーコードを示しています。 データを送信する前にスペースを削除することができます。 上記のバーコードを使用 :

コマンド文字列 : FB0120F10D

FB は「文字の抑制」コマンドです。

01 は抑制される文字の数です。

20 はスペースの 16 進値です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。 : 34567890

<CR>

E4 文字を置き換える

構文 = E4nnxx1xx2yy1yy2…zz1zz2 (nn : 文字数の合計数 (置換される文字と置換文字、xx1 : 置換される文字、xx2 : 置換文字、zz1 と zz2 まで続く)

カーソルを移動せずに、出力メッセージの最大 15 文字を置き換えます。

E4 例 : バーコードデータのゼロを CR に置き換える。



ホストアプリケーションに含めたくない文字がバーコードに含まれている場合は、E4 コマンドを使用してそれらの文字を別の文字に置き換えることができます。この例では、上のバーコードのゼロをキャリッジリターンで置き換えます。

コマンド文字列: E402300DF10D

E4 は「文字の置換」コマンドです。

03 は、置換される文字の総数と置換文字の合計です (0 は CR で置換されるため、総文字数 = 2)。

30 は 0 の 16 進値です。

0D は CR の 16 進値 (0 を置き換える文字)。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です

データは次のように出力されます。 : 1234

5678

ABC

<CR>

BA 文字列を別の文字列に置き換える

構文 = BAnnNN1SS1NN2SS2

NN1:置換される文字列の長さ、NN1>0。

SS1:置換される文字列の各文字の ASCII 16 進数。

NN2 : 置換する文字列の長さ、NN2>=0。 文字列 "SS1 "を NUL に置換するには（つまり文字列 "SS1 "を delete するには）、NN2 を 00 に設定して SS2 を除外する必要があります。

SS2 : 置換文字列の各文字の ASCII 16 進数値。

現在のカーソル位置から、「SS1」文字列（長さ「NN1」）の出現を前方に検索し、「SS1」文字列が全て置換されるか、置換回数が「nn」回になるまで、カーソルを動かさずに、出力メッセージの「SS2」文字列（長さ「NN2」）に置換します。

BA の例 : バーコードデータの「23」を「ABC」に置き換えます。



cd123abc23bc12ab232

ホストアプリケーションに含めたくない文字列がバーコードに含まれている場合は、BA コマンドを使用してその文字列を別の文字列に置き換えることができます。この例では、上のバーコードの「23」を「ABC」に置き換えます。

コマンド文字列: BA0002323303414243F100

BA は「文字列を別の文字列に置き換える」コマンドです。

00 は置換される文字列の数であり、00 はその文字列の全てを置換することを意味します。

02 は、置き換えられる文字列の長さです。

32 は 2 の 16 進値です（置換される文字列内の文字）。

33 は 3 の 16 進値です（置換される文字列内の文字）。

03 は、置換文字列の長さです。

41 は A の 16 進値です（置換文字列の文字）。

42 は B の 16 進値です（置換文字列の文字）。

43 は C の 16 進値です（置換文字列の文字）。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

00 は NUL の 16 進値です。

データは次のように出力されます：cd1ABCabcABCbc12abABC2

BA の例：バーコードデータの最初の「23」のみを削除。

バーコードにホストアプリケーションが削除したい文字列がある場合、BA コマンドを使用して文字列を NUL に置き換えることができます。この例では、上のバーコードで最初に出現する「23」を削除します。

コマンド文字列: BA0102323300F100

BA は「文字列を別の文字列に置き換える」コマンドです。

01 は行われる置換の数です。

02 は、置き換えられる文字列の長さです。

32 は 2 の 16 進値です（置換される文字列内の文字）。

33 は 3 の 16 進値です（置換される文字列内の文字）。

00 は置換文字列の長さ、00 は NUL で置換される文字列を置換することを意味します。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

00 は NUL の 16 進値です。

データは次のように出力されます。：cd1abc23bc12ab23

付録

工場出荷時の設定

パラメーター	工場出荷字設定	備考
システム設定		
1D リーダー		
スキャンモード	トリガーモード	
感度	Medium	
2D リーダー		
スキャンモード	トリガーモード	
感度	Medium	
読み取り成功時の動作	読み取り成功後に一時停止	
読取り時のタイムアウト	無効	
タイムアウトをリセット	off	
1D リーダー & 2D リーダー		
動作モード	Bluetooth モード	
Bluetooth プロファイル	HID	
Bluetooth 経由のデータ転送	同期送信	
USB インターフェイスタイプ	USB HID-KBW	
USB 経由のデータ転送	非同期送信	
データ受信の確認	無効	
サウンド通知	有効	
振動通知	無効	
Bluetooth デバイス名	"BS80+" MAC アドレスの最後の 4 文字	
無効なホストデータに対する応答	有効	
バーコードセパレーター	無効	
パケットモード	無効	
ACK/NAK リトライカウント	2	
ACK/NAK タイムアウト	200ms	
オートパワーオフタイマー	30 分	
製品シリアル番号	無効	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
タイムスタンプ	無効	
日付フォーマット	Format 3: yyyy/mm/dd	
キーボードタイプ	US English	USB HID-KBW/ BT HID
文字エンコード	ISO-8859-1	USB HID-KBW/ BT HID
コンバートケース	無効	USB HID-KBW/ BT HID
エミュレート ALT + キーパッド	無効	USB HID-KBW/ BT HID
ファンクションキーマッピング	無効	USB HID-KBW/ BT HID
テンキーパッドのエミュレート	無効	USB HID-KBW/ BT HID
コードページ	Windows 1252 (Latin I)	USB HID-KBW/ BT HID
Bluetooth HID 用文字間ディレイ	15ms	BT HID
USB HID-KBW 用キーストローク 間ディレイ	0ms	USB HID-KBW
プリフィックス & サフィックス		
1D リーダー		
プリフィックスシーケンス	Code ID+カスタムプリフィックス+AIM ID	
AIM ID プリフィックス	無効	
Code ID プリフィックス	無効	英字 1 ～ 2 文字
カスタムプリフィックス	無効	最大 11 文字
	None	
カスタムサフィックス	無効	最大 11 文字
	None	
終端文字サフィックス	無効	最大 7 文字
	None	
2D リーダー		
プリフィックスシーケンス	カスタムプリフィックス+Code ID+AIM ID	
カスタムプリフィックス	無効	最大 11 文字
	None	
AIM ID プリフィックス	無効	
Code ID プリフィックス	無効	英字 1 ～ 2 文字

パラメーター	工場出荷字設定	備考
カスタムサフィックス	無効	最大 11 文字
	None	
終端文字サフィックス	有効	最大 7 文字
	0x0D (CR)	
スキャン設定(2D リーダーのみ)		
読み取りエリア	全領域読み取り	
読み取り領域を指定	上 40% ,下 60% ,40%左 ,60%右	
データフォーマッター		
データフォーマッター	無効	
データフォーマット	Format_0	
不一致エラービープ音	有効	
シンボル		
1D リーダー		
Code 128		
Code 128	有効	
最大桁数	255	
最小桁数	1	
UCC/EAN-128		
UCC/EAN-128	有効	
最大桁数	255	
最小桁数	1	
AIM 128		
AIM 128	無効	
最大桁数	255	
最小桁数	1	
EAN-8		
EAN-8	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
EAN-8 + 2 桁のアドオンコードのみ読み取り	無効	
EAN-8 + 5 桁のアドオンコードのみ読み取り	無効	
EAN-13 拡張	無効	
EAN-13 変換	無効	
EAN-13		
EAN-13	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
EAN-13 + 2 桁のアドオンコードのみ読み取り	無効	
EAN-13 + 5 桁のアドオンコードのみ読み取り	無効	
JAN-13 (EAN-13) 290 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 378/379 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 414/419 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 434/439 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 977 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 978 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 979 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
ISSN		
ISSN	Disabled	
ISBN		
ISBN	無効	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
ISBN フォーマット	ISBN-13	
UPC-E		
UPC-E	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
UPC-A + 2 桁のアドオンコードの み読み取り	無効	
UPC-A + 5 桁のアドオンコードの み読み取り	無効	
UPC-A 拡張	無効	
UPC-A 変換	無効	
システムキャラクター	送信しない	
国コード	送信しない	
UPC-A		
UPC-A	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
UPC-A + 2 桁のアドオンコードの み読み取り	無効	
UPC-A + 5 桁のアドオンコードの み読み取り	無効	
システムキャラクター	送信	
国コード	送信しない	
Interleaved 2 of 5		
Interleaved 2 of 5	有効	
チェックデジット確認	有効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
最小桁数	6	2 以上
ITF-6		
ITF-6	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
ITF-14		
ITF-14	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
Deutsche 14		
Deutsche 14	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
Deutsche 12		
Deutsche 12	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)		
COOP 25	無効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	3 以上
Matrix 25 (European Matrix 2 of 5)		
Matrix 25	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	3 以上
Industrial 25		
Industrial 25	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
最小桁数	6	4 以上
Standard 25		
Standard 25	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	4 以上
Code 39		
Code 39	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
スタート/ストップキャラクター	送信	
Code 39 Full ASCII	有効	
Code 32	無効	
Code 32 プリフィックス	無効	
Code 32 チェックデジット送信	送信しない	
Code 32 スタート/ストップキャラクター	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	4	1 以上
NW7(Codabar)		
NW7(Codabar)	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
スタートストップキャラクター	ABCD/ABCD	
最大桁数	255	
最小桁数	4	2 以上
Code 93		
Code 93	有効	
チェックデジット確認	有効	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	2	1 以上
Code 11		
Code 11	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
チェックデジット確認	1 桁チェックデジット送信, MOD11	
最大桁数	255	
最小桁数	4	3 以上
Plessey		
Plessey	無効	
チェックデジット確認	有効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	4	4 以上
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
チェックデジット確認	1 桁チェックデジット送信, MOD10	
最大桁数	255	
最小桁数	4	4 以上
GS1 Databar (RSS)		
GS1 Databar	有効	
最大桁数	255	
最小桁数	1	
2D Scanner		
画像反転	無効	すべてのシンボル体系に適用されます。
Code 128		
Code 128	有効	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
最大桁数	127	
最小桁数	1	
GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
AIM 128		
AIM 128	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
EAN-8		
EAN-8	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
EAN-13 拡張	無効	
EAN-13		
EAN-13	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
JAN-13 (EAN-13) 290 で始まる アドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 378/379 で 始まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 414/419 で 始まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T

パラメーター	工場出荷字設定	備考
JAN-13 (EAN-13) 434/439 で始まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 977 で始まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 978 で始まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 797 で始まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
ISSN		
ISSN	無効	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
ISBN		
ISBN	有効	
ISBN フォーマット	ISBN-13	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
UPC-E		
UPC-E	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
UPC-A 拡張	無効	
システムキャラクター“0”	送信	
UPC-A		
UPC-A	有効	
チェックデジット送信	送信	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
2桁アドオンコード	無効	
5桁仇音コード	無効	
アドオンコード	無効	
システムキャラクター	送信	
国コード	送信しない	
Interleaved 2 of 5		
Interleaved 2 of 5	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	2 以上
ITF-6		
ITF-6	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
ITF-14		
ITF-14	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
Deutsche 14		
Deutsche 14	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
Deutsche 12		
Deutsche 12	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)		
COOP 25	無効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
Matrix 25 (European Matrix 2 of 5)		
Matrix 25	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	3 以上
Industrial 25		
Industrial 25	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	4 以上
Standard 25		
Standard 25	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	4 以上
Code 39		
Code 39	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
スタート/ストップキャラクター	送信	
Code 39 Full ASCII	有効	
Code 32	無効	
Code 32 プリフィックス	無効	
Code 32 チェックデジット送信	送信しない	
Code 32 スタート/ストップキャラクター	送信しない	
最大桁数	255	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
最小桁数	4	1 以上
NW7(Codabar)		
NW7(Codabar)	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
スタート/ストップキャラクター	ABCD/ABCD	
最大桁数	255	
最小桁数	4	2 以上
Code 93		
Code 93	有効	
チェックデジット確認	無効	
チェックデジット送信	送信しない	
最大桁数	255	
2D リーダー		
画像反転	無効	すべてのシンボル体系に適用されます。
Code 128		
Code 128	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
AIM 128		
AIM 128	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
EAN-8		
EAN-8	有効	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
チェックデジット送信	送信しない	
2桁アドオンコード	無効	
5桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
JAN-13 (EAN-13) 拡張	無効	
EAN-13		
EAN-13	有効	
チェックデジット送信	送信	
2桁アドオンコード	無効	
5桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
JAN-13 (EAN-13) 290 で始まる アドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 378/379 で 始まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 414/419 始 まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 434/439 で 始まるアドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 977 で始まる アドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 978 で始まる アドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
JAN-13 (EAN-13) 979 で始まる アドオンコード必須設定	無効	For BS8060-2T
ISSN		
ISSN	無効	
2桁アドオンコード	無効	
5桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
ISBN		
ISBN	有効	
ISBN フォーマット	ISBN-13	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
UPC-E		
UPC-E	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
UPC-A 拡張	無効	
システムキャラクター "0"	送信	
UPC-A		
UPC-A	有効	
チェックデジット送信	送信	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
システムキャラクター	送信	
国コード	送信しない	
Interleaved 2 of 5		
Interleaved 2 of 5	有効	
チェックデジットを確認する	無効	
チェックデジットの送信	送信しない	
最大桁数	100	
最小桁数	6	
ITF-6		
ITF-6	無効	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
チェックデジットの送信	送信しない	
ITF-14		
ITF-14	有効	
チェックデジットの送信	送信しない	
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5	無効	
チェックデジットを確認する	無効	
チェックデジットの送信	送信しない	
最大桁数	127	
最小桁数	6	
Industrial 25		
Industrial 25	有効	
チェックデジットを確認する	無効	
チェックデジットの送信	送信しない	
Maximum Length	127	
Minimum Length	6	
Standard 25		
Standard 25	有効	
チェックデジットを確認する	無効	
チェックデジットの送信	送信しない	
最大桁数	127	
最小桁数	6	
Code 39		
Code 39	有効	
チェックデジットを確認する	無効	
チェックデジットの送信	送信しない	
スタート/ストップキャラクター	送信しない	
Code 39 Full ASCII	有効	
Code 32	無効	For BS8060-2T
Code 32 プリフィックス	無効	For BS8060-2T

パラメーター	工場出荷字設定	備考
Code 32 チェックデジット	送信しない	For BS8060-2T
Code 32 スタート/ストップキャラクター	送信しない	For BS8060-2T
最大桁数	127	
最小桁数	2	
NW7(Codabar)		
NW7(Codabar)	有効	
チェックデジットを確認する	無効	
チェックデジットの送信	送信しない	
スタート/ストップキャラクター	送信しない	
スタート/ストップキャラクターフォーマット	ABCD/ABCD	
最大桁数	127	
最小桁数	2	
Code 93		
Code 93	有効	
チェックデジットを確認する	有効	
チェックデジットの送信	送信しない	
最大桁数	127	
最小桁数	3	
Code 11		
Code 11	有効	
チェックデジットを確認する	1 桁チェックデジット送信, MOD11	
チェックデジットの送信	送信しない	
最大桁数	127	
最小桁数	2	
Plessey		
Plessey	有効	
チェックデジットを確認する	有効	
チェックデジットの送信	送信しない	

パラメーター	工場出荷字設定	備考
定池多数	127	
最小桁数	1	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	有効	
チェックデジットを確認する	1 桁チェックデジット送信, MOD10	
チェックデジットの送信	送信しない	
最大桁数	127	
最小桁数	2	
PDF417		
PDF417	有効	
最大桁数	2710	
最小桁数	1	
PDF 417 ツインコード	シングル PDF417 のみ	
QR Code		
QR Code	Enabled	
Micro QR	Enabled	
最大桁数	7089	
最小桁数	1	
QR ツインコード	シングル QR のみ	
Data Matrix		
Data Matrix	有効	
長方形バーコード	有効	
ミラーイメージ	有効	
最大桁数	3116	
最小化手数	1	
DM ツインコード	シングル DM のみ	
Chinese Sensible Code		
Chinese Sensible Code	無効	
最大桁数	7827	
最小桁数	1	

Digit バーコード (1D リーダー)

0 ~ 9



0



1



2



3



4



5



6



7



8



9

A ~ F



A



B



C



D



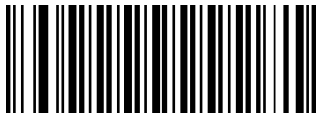
E



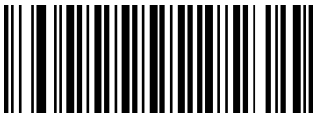
F

Digit バーコード (2D リーダー)

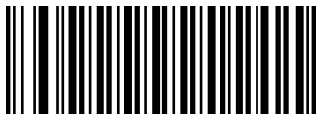
0 ~ 9



0



5



1



6



2



7



3



8



4



9

A ~ F



A



B



C



D



E



F

Digit バーコード

0 ~ 9



0



5



1



6



2



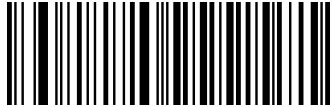
7



3



8



4



9

A ~ F



A



B



C



D



E



F

保存/キャンセルバーコード (1D リーダー)

数値バーコードを読み取った後、保存バーコードをスキャンしてデータを保存する必要があります。間違った数字をスキャンした場合は、キャンセルバーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、[最後の数字を削除]バーコードをスキャンしてから正しい数字をスキャンするか、[すべての数字を削除]バーコードをスキャンして下さい。

たとえば、最大長のバーコードと数値バーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、次をスキャンします。

◇ 最後の数字を削除：最後の数字「3」が削除されます。

◇ すべての数字を削除：すべての数字「123」が削除されます。

キャンセル：最大長の構成がキャンセルされます。リーダーはまだセットアップモードです。



保存



キャンセル



最後の数字を削除



全ての数字を削除

保存/キャンセルバーコード (2D リーダー)

数値バーコードを読み取った後、保存バーコードをスキャンしてデータを保存する必要があります。間違った数字をスキャンした場合は、キャンセルバーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、「最後の数字を削除」バーコードをスキャンしてから正しい数字をスキャンするか、「すべての数字を削除」バーコードをスキャンして下さい。

たとえば、最大長のバーコードと数値バーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、次をスキャンします。

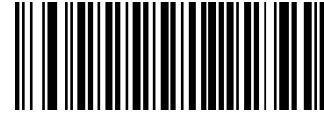
最後の数字を削除：最後の数字「3」が削除されます。

すべての数字を削除：すべての数字「123」が削除されます。

キャンセル：最大長の構成がキャンセルされます。リーダーはまだセットアップモードです。



保存



最後の数字を削除



全ての数字を削除



キャンセル

保存/キャンセルバーコード



保存



キャンセル



最後の数字を削除



全ての数字を削除

AIM ID テーブル (2D リーダー)

シンボル	AIM ID	Possible AIM ID Modifiers (m)
Code 128]C0	
UCC/EAN-128]C1	
AIM 128]C2	
ISBT 128]C4	
EAN-8]E4	
EAN-13]E0	
EAN-13 with Addon]E3	
ISSN]X0	
ISBN]X0	
UPC-E]E0	
UPC-E with Addon]E3	
UPC-A]E0	
UPC-A with Addon]E3	
Interleaved 2 of 5]Im	0,1,3
ITF-6]Im	1,3
ITF-14]Im	1,3
Deutsche 14]X0	
Deutsche 12]X0	
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)]X0	
Matrix 2 of 5(European Matrix 2 of 5)]X0	
Industrial 25]S0	
Standard 25]R0	
Code 39]Am	0,1,3,4,5,7
NW7(Codabar)]Fm	0,2,4
Code 93]G0	

シンボル	AIM ID	Possible AIM ID Modifiers (m)
Code 11]Hm	0,1,3
Plessey]P0	
MSI-Plessey]Mm	0,1
GS1 Databar]e0	
PDF417]Lm	0,1,2
MicroPDF417]Lm	3,4,5

注意：「m」はAIM 修飾文字を表します。ISO / IEC 15424 : 2008 情報技術-自動識別およびデータキャプチャテクニック- AIM 修飾子の詳細については、データキャリア識別子（シンボル体系識別子を含む）を参照してください。

シンボル	AIM ID	備考
EAN-13]E0	標準 EAN-13
]E3	EAN-13 + 2/5 桁のアドオンコード
EAN-8]E4	標準 EAN-8
]E4…]E1…	EAN-8 + 2 桁のアドオンコード
]E4…]E2…	EAN-8 + 5 桁のアドオンコード
UPC-E]E0	標準 UPC-E
]E3	UPC-E + 2/5 桁のアドオンコード
UPC-A]E0	標準 UPC-A
]E3	UPC-A + 2/5 桁のアドオンコード
Code 128]C0	標準 Code 128
GS1-128 (UCC/EAN-128)]C1	FNC1 は開始文字後の 1 桁目
AIM-128]C2	FNC1 は開始文字後の 2 桁目
ISBT-128]C4	
Interleaved 2 of 5]I0	チェックキャラクターの検証しない
]I1	検証後にチェックキャラクターを送信
]I3	検証後にチェックキャラクターを送信しない
ITF-6]I1	チェックキャラクターの送信
]I3	チェックキャラクターを送信しない
ITF-14]I1	チェックキャラクターの送信
]I3	チェックキャラクターを送信しない
Industrial 2 of 5]S0	指定なし
Standard 2 of 5]R0	チェックキャラクターの検証しない
]R8	MOD10; チェックキャラクターを送信しない
]R9	MOD10; チェックキャラクターを送信

シンボル	AIM ID	備考
Code 39]A0	バーコードをそのまま送信します。 フル ASCII は無効。
]A1	MOD43; チェックキャラクターを送信
]A3	MOD43; チェックキャラクターを送信しない
]A4	フル ASCII 対応。 チェックキャラクターの検証なし
]A5	フル ASCII 対応。 チェックキャラクターを送信
]A7	フル ASCII 対応。 チェックキャラクターを送信しない
NW7(Codabar)]F0	標準 NW7 (Codabar)
]F2	検証後にチェックキャラクターを送信
]F4	検証後にチェックキャラクターを送信しない
Code 93]G0	標準 Code 93
Code 11]H0	MOD11; チェックキャラクターを送信
]H1	MOD11 / MOD11; チェックキャラクターを送信
]H3	検証後にチェックキャラクターを送信しない
]H9	チェックキャラクターの検証なし
GS1-DataBar (RSS)]e0	標準 GS1-DataBar
Plessey]P0	標準 Plessey
MSI-Plessey]M0	MOD10; チェックキャラクターを送信
]M1	MOD10; チェックキャラクターを送信しない
]M7	MOD10/ MOD11; チェックキャラクターを送信しない
]M8	MOD10/ MOD11; チェックキャラクターを送信
]M9	チェックキャラクターの検証なし
Matrix 2 of 5]X0	メーカー指定
]X1	チェックキャラクターの検証なし
]X2	MOD10; チェックキャラクターを送信
]X3	MOD11; チェックキャラクターを送信しない

シンボル	AIM ID	備考
ISBN]X4	標準 ISBN
ISSN]X5	標準 ISSN
PDF417]L0	Comply with 1994 PDF417 specifications
Data Matrix]d0	ECC000 - ECC140
]d1	ECC200
]d2	ECC200、FNC1 は開始文字後の 1 番目または 5 桁目
]d3	ECC200、FNC1 は開始文字後の 2 番目または 6 桁目
]d4	ECC200、ECI を含む
]d5	ECC200、FNC1 は開始文字後の 1 番目または 5 桁目、ECI を含む
]d6	ECC200、FNC1 は開始文字の 2 番目または 6 桁目で、ECI を含む
QR Code]Q0	QR1
]Q1	2005 バージョン、ECI 除外
]Q2	2005 バージョン、ECI 除外
]Q3	QR Code 2005、ECI を除く、FNC1 は開始文字後の 1 桁目
]Q4	QR コード 2005、ECI を含む、FNC1 は開始文字後の 1 桁目
]Q5	QR コード 2005、ECI を除く、FNC1 は開始文字後の 2 桁目
]Q6	QR コード 2005、ECI を含む、FNC1 は開始文字後の 2 桁目
Chinese Sensible Code]X0	
Code 11]H0	MOD11; チェックキャラクターを送信
]H1	MOD11/MOD11; チェックキャラクターを送信
]H3	検証後にチェックキャラクターを送信しない
]H9	チェックキャラクターの検証なし
GS1-DataBar (RSS)]e0	標準 GS1-DataBar
Plessey]P0	標準 Plessey

シンボル	AIM ID	備考
MSI-Plessey]M0	MOD10; チェックキャラクターを送信
]M1	MOD10; チェックキャラクターを送信しない
]M7	MOD10/ MOD11; チェックキャラクターを送信しない
]M8	MOD10/ MOD11; チェックキャラクターを送信
]M9	チェックキャラクターの検証なし
Matrix 2 of 5]X0	メーカー指定
]X1	チェックキャラクターの検証なし
]X2	MOD10; チェックキャラクターを送信
]X3	MOD11; チェックキャラクターを送信しない
ISBN]X4	標準 ISBN
ISSN]X5	標準 ISSN
PDF417]L0	1994 PDF417 仕様に準拠
Data Matrix]d0	ECC000 - ECC140
]d1	ECC200
]d2	ECC200、FNC1 は開始文字後の 1 番目または 5 桁目
]d3	ECC200、FNC1 は開始文字後の 2 番目または 6 桁目
]d4	ECC200、ECI を含む
]d5	ECC200、FNC1 は開始文字後の 1 番目または 5 桁目、ECI を含む
]d6	ECC200、FNC1 は開始文字後の 2 番目または 6 桁目で、ECI を含む
QR Code]Q0	QR1
]Q1	2005 バージョン、ECI 除外
]Q2	2005 バージョン、ECI を含む
]Q3	QR コード 2005、ECI を除く、FNC1 は開始文字後の 1 桁目
]Q4	QR コード 2005、ECI を含む、FNC1 は開始文字後の 1 桁目
]Q5	QR コード 2005、ECI を除く、FNC1 は開始文字後の 2 桁目
]Q6	QR コード 2005、ECI を含む、FNC1 は開始文字後の 2 桁目
Chinese Sensible Code]X0	

参照：ISO / IEC 15424：2008 情報技術-自動識別およびデータキャプチャ技術-データキャリア
識別子（記号学識別子を含む）。

コード ID テーブル (1D リーダー)

バーコード	Code ID
Code 128	j
UCC/EAN-128	u
AIM 128	f
EAN-8	g
EAN-13	d
ISSN	n
ISBN	B
UPC-E	h
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5	e
ITF-6	r
ITF-14	q
Deutsche 14	w
Deutsche 12	l
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)	o
Matrix 2 of 5(European Matrix 2 of 5)	v
Industrial 25	i
Standard 25	s
Code 39	b
NW7(Codabar)	a
Code 93	y
Code 11	z
Plessey	p
MSI-Plessey	m
GS1 Databar	R

コード ID テーブル (2D リーダー)

シンボル	Code ID
Code 128	j
GS1-128(UCC/EAN-128)	j
AIM-128	f
EAN-8	d
EAN-13	d
ISSN	n
ISBN	B
UPC-E	c
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5	e
ITF-6	e
ITF-14	e
Matrix 2 of 5	v
Industrial 2 of 5	D
Standard 2 of 5	s
Code 39	b
NW7(Codabar)	a
Code 93	i
Code 11	H
Plessey	p
MSI-Plessey	m
GS1 Databar	R
PDF417	r
QR Code	Q
Data Matrix	u
Chinese Sensible Code	h

ASCII テーブル

Hex	Dec	Char
00	0	NUL (Null char.)
01	1	SOH (Start of Header)
02	2	STX (Start of Text)
03	3	ETX (End of Text)
04	4	EOT (End of Transmission)
05	5	ENQ (Enquiry)
06	6	ACK (Acknowledgment)
07	7	BEL (Bell)
08	8	BS (Backspace)
09	9	HT (Horizontal Tab)
0a	10	LF (Line Feed)
0b	11	VT (Vertical Tab)
0c	12	FF (Form Feed)
0d	13	CR (Carriage Return)
0e	14	SO (Shift Out)
0f	15	SI (Shift In)
10	16	DLE (Data Link Escape)
11	17	DC1 (XON) (Device Control 1)
12	18	DC2 (Device Control 2)
13	19	DC3 (XOFF) (Device Control 3)
14	20	DC4 (Device Control 4)
15	21	NAK (Negative Acknowledgment)
16	22	SYN (Synchronous Idle)
17	23	ETB (End of Trans. Block)

Hex	Dec	Char
18	24	CAN (Cancel)
19	25	EM (End of Medium)
1a	26	SUB (Substitute)
1b	27	ESC (Escape)
1c	28	FS (File Separator)
1d	29	GS (Group Separator)
1e	30	RS (Request to Send)
1f	31	US (Unit Separator)
20	32	SP (Space)
21	33	! (Exclamation Mark)
22	34	"
23	35	# (Number Sign)
24	36	\$
25	37	% (Percent)
26	38	& (Ampersand)
27	39	` (Single Quote)
28	40	((Left/ Opening Parenthesis)
29	41) (Right / Closing Parenthesis)
2a	42	*
2b	43	+ (Plus)
2c	44	, (Comma)
2d	45	-
2e	46	. (Dot)
2f	47	/
30	48	0
31	49	1

Hex	Dec	Char
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (Colon)
3b	59	; (Semi-colon)
3c	60	< (Less Than)
3d	61	= (Equal Sign)
3e	62	> (Greater Than)
3f	63	? (Question Mark)
40	64	@ (AT Symbol)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K

Hex	Dec	Char
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(Left / Opening Bracket)
5c	92	¥ (Back Slash)
5d	93] (Right / Closing Bracket)
5e	94	^ (Caret / Circumflex)
5f	95	_ (Underscore)
60	96	' (Grave Accent)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e

Hex	Dec	Char
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (Left/ Opening Brace)
7c	124	(Vertical Bar)
7d	125	} (Right/Closing Brace)
7e	126	~ (Tilde)
7f	127	DEL (Delete)

ASCII ファンクションキーマッピングテーブル

ASCII Function	ASCII Value (HEX)	No Function Key Mapping	Function Key Mapping
NUL (Null char.)	00	Null	Ctrl+2
SOH (Start of Header)	01	Keypad Enter	Ctrl+A
STX (Start of Text)	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX (End of Text)	03	Null	Ctrl+C
EOT (End of Transmission)	04	Null	Ctrl+D
ENQ (Enquiry)	05	Null	Ctrl+E
ACK (Acknowledgment)	06	Null	Ctrl+F
BEL (Bell)	07	Enter	Ctrl+G
BS (Backspace)	08	Left Arrow	Ctrl+H
HT (Horizontal Tab)	09	Horizontal Tab	Ctrl+I
LF (Line Feed)	0A	Down Arrow	Ctrl+J
VT (Vertical Tab)	0B	Vertical Tab	Ctrl+K
FF (Form Feed)	0C	Delete	Ctrl+L
CR (Carriage Return)	0D	Enter	Ctrl+M
SO (Shift Out)	0E	Insert	Ctrl+N
SI (Shift In)	0F	Esc	Ctrl+O
DLE (Data Link Escape)	10	F11	Ctrl+P
DC1 (XON) (Device Control 1)	11	Home	Ctrl+Q
DC2 (Device Control 2)	12	Print Screen	Ctrl+R
DC3 (XOFF) (Device Control 3)	13	Backspace	Ctrl+S
DC4 (Device Control 4)	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK (Negative Acknowledgment)	15	F12	Ctrl+U
SYN (Synchronous Idle)	16	F1	Ctrl+V
ETB (End of Trans. Block)	17	F2	Ctrl+W
CAN (Cancel)	18	F3	Ctrl+X

ASCII Function	ASCII Value (HEX)	No Function Key Mapping	Function Key Mapping
EM (End of Medium)	19	F4	Ctrl+Y
SUB (Substitute)	1A	F5	Ctrl+Z
ESC (Escape)	1B	F6	See the following table
FS (File Separator)	1C	F7	
GS (Group Separator)	1D	F8	
RS (Request to Send)	1E	F9	
US (Unit Separator)	1F	F10	

ASCII ファンクションキーマッピングテーブル (続き)

前の表の最後の 5 文字のファンクションキーマッピングは、キーボードレイアウトによって異なります。

国/キーボード レイアウト	ファンクションキーマッピング				
	1B	1C	1D	1E	1F
United States	Ctrl+[Ctrl+¥	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
Belgium	Ctrl+[Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
Scandinavia	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
France	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+\$	Ctrl+6	Ctrl+=
Germany		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-
Italy		Ctrl+¥	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-
Switzerland		Ctrl+<	Ctrl+.	Ctrl+6	Ctrl+-
United Kingdom	Ctrl+[Ctrl+ ¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
Denmark	Ctrl+8	Ctrl+¥	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
Norway	Ctrl+8	Ctrl+¥	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
Spain	Ctrl+[Ctrl+¥	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-

シンボル ID ナンバー

シンボル	ID Number
Code 128	002
UCC/EAN-128	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
Interleaved 2 of 5, Febraban	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39, Code 32	013
NW7(Codabar)	015
Code 93	017
AIM-128	020
COOP 25	022
ISSN	023
ISBN	024
Industrial 25	025
Standard 25	026
Plessey	027
Code 11	028
MSI-Plessey	029
GS1 Databar	031
PDF417	032
QR Code	033
Data Matrix	035
Chinese Sensible Code	039
Deutsche 14	128
Deutsche 12	129

